



— 今こそ絆！復興事業 —

熊本地震 発生からの 歩み

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
(SCS 火の国クラブネット)



ご支援をいただいた全国のみなさまへのお礼



熊本県総合型地域
スポーツクラブ連絡協議会
会長
長田 政敏

2016年4月に発生した「熊本地震」に対して、多大なるご支援・ご協力をいただきました全国の総合型地域スポーツクラブ関係者の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

熊本地震発生から約2年が経過し、インフラも整備され、生活が復旧したかに見える熊本ですが、今も全壊した家屋やひび割れ、隆起したままの道路など、至る所に地震の爪痕が残っています。

また、スポーツ施設等の復旧工事も進められておりますが、早急に着工できない問題などもあり、スポーツ現場にも多大なる影響を及ぼしています。

震災から年月が経過するにつれ、少しずつ世間の関心が薄れつつある中、我々が経験したこと、感じたことを少しでも多くの方々に知っていただき、今後につなげていきたいという強い思いから、熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会「今こそ絆!復興事業」の一環として、「総合型地域スポーツクラブ」の関係者らが地震の直後から立ち上がり、現在にいたるまで、熊本県の復旧・復興のために取り組んできた活動を冊子にまとめました。今後の皆様の活動に、少しでもお役立ていただければ幸いです。

今後も、熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会は、熊本の復旧・復興のために、更には魅力的な地域づくり・ひとづくりのために、活動し続けていきます。



Contents

02 熊本地震発生時の県内の状況

04 熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

05 地震発生後のクラブの取組～クラブ紹介～

- 06 No.1 「事業委託」(大津町) NPO 法人クラブおおづ
- 08 No.2 「スポーツ施設指定管理者」(宇土市) NPO 法人うとスポーツクラブ
- 10 No.3 「避難所での活動」(阿蘇市) NPO 法人火の山スポーツクラブ
- 12 No.4 「自前の施設」(熊本市東区桜木校区) NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブ
- 14 No.5 「近隣ネットワークの構築」 上下益城郡総合型地域スポーツクラブ
- 16 No.6 「防災マニュアルの作成」(天草市) うしぶかイキイキクラブ

17 熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の取組～今こそ絆!復興事業～

- 18 Vol.1 研修会 「クラブから地域を盛り上げよう!! 熊本地震からの復旧・復興に向けて」
- 22 Vol.2 交流事業 「リセット!そしてスタート!」
- 26 Vol.3 補助事業 「ブロック別復興事業補助事業」
- 30 Vol.4 研修会 「明日へつなごう、みんなの『わ』」
- 32 Vol.5 イベント 「火の君に集え!!震れても揺れるな心と体 “目指せ復興”」
- 34 Vol.6 報告書 「熊本地震発生からの歩み」 作製

35 伝えたいこと

40 御支援いただいた皆様

42 熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会加入クラブ一覧

44 おわりに



震度6以上の地震が7回発生し、4,284回（平成29年3月31日気象庁ホームページより）の余震が発生したといわれている。

14

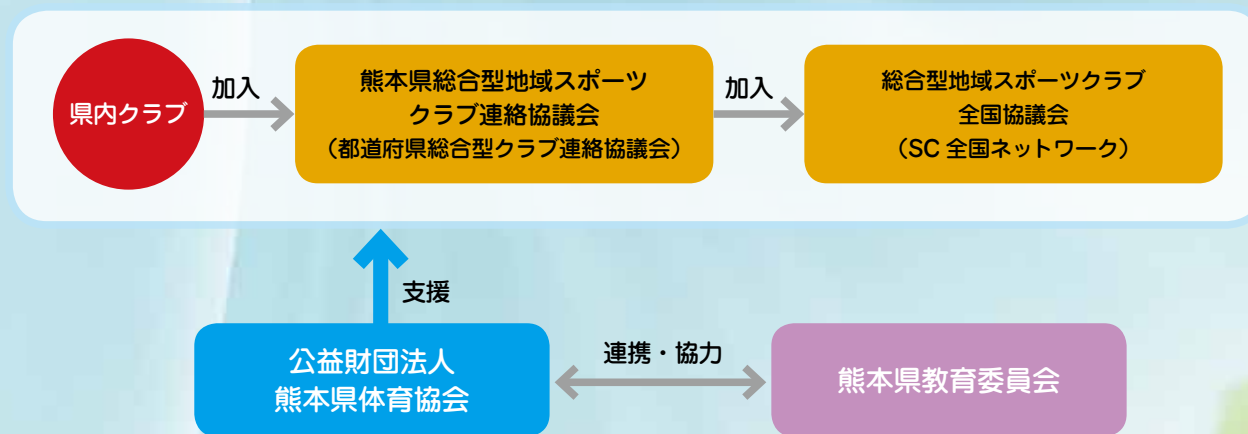
4/16

16

熊本県総合型地域 スポーツクラブ連絡協議会とは

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（呼称：SCS 火の国クラブネット）は、クラブ同士が“知恵”や“汗”を出し合い、互いに手を取り合い、切磋琢磨し、熊本県における総合型地域スポーツクラブの更なる活性化を図ることを目的として、平成22年2月11日に発足しました。

SCS 火の国クラブネットは、総合型地域スポーツクラブの全国的なネットワーク組織である総合型地域スポーツクラブ全国協議会（SC 全国ネットワーク）に加入し、全国の総合型地域スポーツクラブとも手を取り合っています。



活 動 内 容

SCS 火の国クラブネットには、現在、60クラブが加入をしています（平成30年2月現在）。クラブは、北・中央・南の各ブロックに所属しています。

SCS 火の国クラブネットは、各ブロック及び県体協から理事を選出し、クラブの意見や要望を反映し、クラブが主体となって運営をしています。例年、県内のクラブが一同に会して、交流を深める県内クラブ交流大会やクラブ運営に関する研修会を行っています。また、各ブロックにおいても交流会や会議の開催を行っています。



※ブロック内の（ ）はクラブ数。常任委員会・理事会・評議員会の（ ）は、人数を表す。

・日頃からの地域活動の大切さ
・組織間ネットワークの力
・経験を伝え、意見を交わす
・危機管理能力
・生きるを真剣に
・ポジティブ思考～すべてが感謝に

地震発生後の クラブの取組

～クラブ紹介～

- 06 大津町 NPO 法人クラブおおづ
- 08 宇土市 NPO 法人うとスポーツクラブ
- 10 阿蘇市 NPO 法人火の山スポーツクラブ
- 12 熊本市東区 桜木校区 NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブ
- 14 上益城郡・下益城郡 上下益城郡総合型地域スポーツクラブ
- 16 天草市 うしぶかイキイキクラブ

町スポーツ施設のトレーニングジムを事業委託 NPO法人クラブおおづ



NPO 法人クラブおおづ
ゼネラルマネジャー
斎藤 陽子 氏

NPO 法人クラブおおづの専任ゼネラルマネジャーとして勤務。専門は水泳競技。日本協公認クラブマネジャーの他に、健康運動指導士や救急救命士の資格等を持たれている。また、日本赤十字社熊本支部のボランティア指導員としての活動もされている。
熊本地震により、大津町も甚大な被害があり、自身の自宅も被災。みなし仮設に家族と入居されている。(写真左・H29 年度に実施されたドイツ研修時)

発災直後

4/14 21:26 前震発生
大津町総合体育館が一時避難所となる。

4/14 ~ 15
体育館の営業をするかどうか、行政に確認。→「営業しない」判断。
クラブスタッフで避難所となっている体育館でその手伝いをしていた。

4/16 1:25 本震発生
ライフラインが途切れる(停電、断水等)、体育館の天井が落ち、避難所として利用できない状況となった。体育館のロビーは避難所として利用したが、それでは足りず、トレーニングルームも避難所となった。避難者は駐車場にも避難し、車で過ごした。

Point

地元では元々何か災害等発生した際は、大津町総合体育館が避難所となる認識が住民に伝わっていた。(北部豪雨災害等大雨による災害時の経験もあり)
地元住民が早めに警戒し、避難したことで、大津町総合運動公園に多くの避難者が集まった。

Interview

Q1. 地震発生直後、最初に思ったことは？

「我が子、そして家族…」

「最初」に思ったのは家族の安否だった。幸いすぐに家族と連絡がとれたので、クラブのことを考えた。

前震は4月14日の午後9時30分頃だったため、事業委託を受けているトレーニングジムのスタッフが大丈夫か心配になった。また、ジム自体は午後9時までの営業だが、大津町総合体育館は午後10時までの営業だったため、利用しているお客さんがいたか、心配になった。すぐにスタッフに安否確認を行い、現場に駆けつけた。

Q2. 地震発生後、困ったことは？

「決断権がどこにあるのか分からない」

何をするにしても、誰に決断権があるのか分からなかった。ボランティアをすること、施設の利用、様々な問い合わせへの対応についても全て時間がかかり、先が見えない状況が続いた。住民の不安感が増していった。

しかし、行政がしなければいけないことが山積の中で、クラブには「すぐ動ける人がいる」という強みがあった。積極的にクラブができることを見つけ、活動した。

Q3. 委託ならではの悩みとは？

「災害時の人件費」

クラブでは大津町総合体育館の中のトレーニングルームの事業委託をもらっているが、体育館が開放されない間は業務が発生しないため、職員の賃金が払えないかもしれないということが一番に考えたことだった。災害時の人件費については、深刻な問題であると思う。クラブおおづの場合は、健康づくり事業、トレーニングルーム事業については、会場等を変える等して実施し、人件費を捻出することができた。

Q4. 支援としてありがたかったことは？

「アドバイス」

地震発生直後、岩手県のNPO法人フォルダから司東氏が大津町に来てくれた。東日本大震災の教訓から、様々な具体的なアドバイスをいただいたことは非常に心強かった。

「運動・スポーツの重要性の啓発」

災害時、エコノミークラス症候群発生など関連死の関係などもあり、メディアが運動・スポーツの重要性について啓発されたことで、クラブが活動することに理解を得やすかった。

「支援金・寄付金」

スタッフの活動費などを含め、クラブの運営が厳しい中で、温かい支援金・寄付金は大変ありがたかった。

クラブでコレ
はじめました！

災害提携サポート

地震発生後、事業をするにしてもチラシの作成等事務的なことをする時間や人が足りず困った。

岩手県のNPO法人フォルダと協議し、平成30年3月13日NPO法人クラブおおづ設立15周年式典の際、NPO法人フォルダと災害時応援協定を締結した。非常時に事務局機能やクラブの情報発信などの代行や、被災地支援を行う際連携して実施することなどを決定した。

クラブ概要

設立 平成15年4月27日
会員数 386人(平成28年度末現在／大津町人口34,222人)
職員数 常勤職員6人、非常勤職員3人
事務局 〒869-1217 菊池郡大津町森1000(大津町運動公園内)
TEL/FAX 096-294-2922 メール clubozu150427@yahoo.co.jp
ホームページ http://clubozu.com/

【クラブ・サークル事業】

・年間を通して23種目26サークルの活動

【健康推進事業】

・生活習慣病予防教室 ・貯筋ステーション設置事業 ・Inbody 測定会
・夏休み特別教室 ・コーディネーショントレーニング 等

【学校サポート事業】

・クラブの指導者メンバーが小学校でレクリエーションやスポーツ教室等のプログラムを提供療育施設や小学校部活動へも指導者を派遣している。



「ハートニット」 右・徳永アシスタントマネジャー

ノルディックウォーキング指導 右手前・黒田副理事長

仮設住宅

「大津町地域支え合い事業～健康サポート～」

熊本地震発生後、熊本県内の18市町村において、熊本地震で被災した方々が生活再建に向けて安心した日常生活を送れるよう、見守りや健康・生活支援、地域交流の促進などの総合的な支援を行う「地域支え合いセンター」が設置され、各地で活動している。
【平成28年度～設置】熊本市、宇土市、宇城市、阿蘇市、美里町、大津町、菊陽町、南阿蘇村、西原村、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、山都町、氷川町
【平成29年度～設置】八代市、菊池市、合志市

「大津町地域支え合い事業」健康サポート事業をクラブが受託

平成28年10月(地震発生後5ヶ月後)からスタートし、7仮設地域に出向き、サロン活動を行ったり、被災者の心のケアを行うなど、コミュニティの形成に寄与している。

サロン活動では、運動教室、トレーニング教室、栄養教室、ノルディックウォーキングや各種健康イベントを行っており、「ハートニット」という活動を行っている。

※「ハートニット」世界中からニットを寄付して頂き、そのニットで編み物をしてできた商品を販売し、その収益はそのまま製作した被災者に送り届けられる。

また、被災者支援の一環として、トレーニングルームの利用は無料とし、クラブのプログラムにも無料で参加できるようにしている。(被災者のためのカードも作成※右記のとおり)

支え合い事業を受託して…～課題～

○専門性が必要

様々な課題や不安を抱えた方々に対応しているが、コミュニケーションスキル等、心のケアをするための専門性が必要だと痛感している。

○職員(支援者側)のケアが必要

張り詰めた日常の中で、精神的に不安定な人の話を聞いたりサポートしたりしなければいけない。

日々、被災者の様々な状況の中で支援活動をしていると、私たち支援者側がストレスを抱えてしまうケースが多々ある。見逃しがちな支援者側に対する「心のケア」の活動もしていかなければいけない。



案内チラシ



被災者のための支え合い事業カード



ハートニットで作製された
大津町のキャラクター
「からいもくん」



ハートニットがゴルフ雑誌に掲載され、販売されている

研修会の実施

平成29年度から、クラブ主催で地域の各種団体を講師として招き、それぞれの組織の趣旨・目的や活動内容を知る研修機会を定期的に設けている。互いを知ることによって連携方法が模索できる。

総合型地域スポーツクラブだからできたこと。
日頃からの活動や関わる様々な人の協力からクラブの「強み」がわかりました。
地域のために、できることからやっていくべきだと思います！
— 斎藤 陽子 —



—平成29年度SCS研修会の様子—
斎藤さんは、熊本県内外で熊本地震から学んだことを発信し、講演や研修を行っていらっしゃいます。



NPO 法人うとスポーツクラブ
クラブマネジャー

兼田 裕明氏

NPO 法人うとスポーツクラブの専任クラブマネジャーとして勤務。もともと病院に勤務されており、退職後、理事として関わっていた本クラブのクラブマネジャーに着任。日体協公認アシスタントマネジャー資格を取得。宇土市のスポーツ施設の指定管理者として、マネジメントに従事されている。

防災直後

4/14 21:26 前震発生

22:00頃 避難者がいるため宇土市民体育館を開放する旨行政から連絡を受ける。

その後の避難者については、市の職員が対応。

4/15 被災状況の確認

クラブの指定管理施設や市内の様子を巡回・確認し、被災状況を把握。武道館の天井が崩落していることを確認。使用不可となる。業務としては通常業務を行った。

4/16 1:25 本震発生

体育館やグラウンドに多くの避難者が詰めかけたため、周辺が大渋滞。体育館内のクラブ事務所に入ろうとしたが、棚等も全て倒れており、入室不可能な状況。

4/17 市役所が被災

余震が続く中、事務所内等を片付けていたところ、行政から「市役所が倒壊したため、18日より危機管理業務を宇土市民体育館内に移す旨通知を受ける。施設利用予約者のキャンセルに追われる。

4/18 市役所が宇土市民体育館内に引越

市役所機能が全面的に移行。(4/18～8/7 体育館フロア内で市役所職員が業務。)

Interview

Q1. 地震発生直後、最初に思ったことは？

「施設はどうなるのか？施設利用料を含めた指定管理費はどうなる！？クラブの存続は？」

前震後は武道館が使用できない状況であったが、本震発生後、体育館やグラウンドの使用もできない状況を考えてときに「職員の雇用だけは担保しなければ！」と思った。また、市役所機能が体育館内に移るときは、クラブ事務所もどこかに移さないといけないのか！？という不安もあり、クラブそのものの存続に危機感があった。

Q2. 地震発生後、困ったことは？

「行政の判断が絶対」

施設の利用再開や指定管理費のことなど、先行不透明な状況であった。常に判断を仰ぐべきは行政。しかし、行政の方も見通しが立たない中で、なかなか判断に時間を要することも多々あり、職員の賃金を含め、一番困ったのはお金が足りるのか…ということだった。また、行政に色々相談しようにも、具体的な話が出来る状態でなかった。どれくらい経費を執行して良いのか分からない状況で、行政からの補填予算はあるのかなど、行政と何度も協議を重ねたが、見通しが立たず、不安で眠れない日々も続いた。

Q3. 指定管理の難しさとは？

「イレギュラーに対応していない」

指定管理費は行政で決められた額の範囲での入札で決まるが、それではもともと厳しい財政の上、災害というイレギュラーな事態の積算というのがない状況だった。契約書の条文中、今回のような災害時のことなどの記載はない。契約した額より余った場合は行政に返金、超えた分はクラブ負担という性質上、経営はかなり難しいと思う。

Q4. 地震後のスタッフの業務とは？

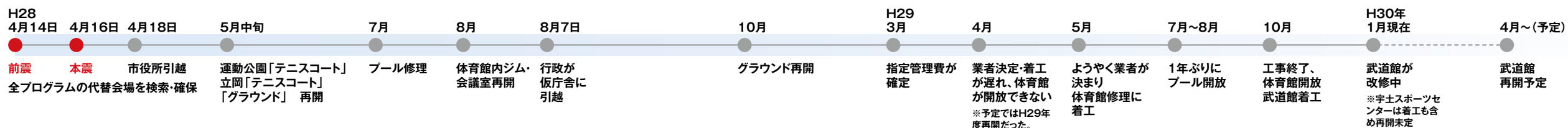
「行政の手伝い」

宇土市民体育館内に行政機能が移り、スポーツ施設として使用できない状況の中、何もしなければ賃金など指定管理費が削られる恐れがある。そこで、行政と相談し、「総合受付」をクラブ職員が行うことにした。更に、体育館内に大量に運ばれた物資の仕分けなども手分けして手伝い、夜はグラウンドや公園内に車中泊している人がたくさんいたため、見回りも行った。また市機能の運営に支障がないように、シフトを組み直して日曜日、祝日も交代で出勤した。全ての職員の業務について、細かく記録した。

Point

もともと行政が指定する「1次指定避難所」ではなかった宇土市民体育館だが、多くの方が避難してきた。宇土市役所裏の福祉センターは指定避難所だったが、宇土市役所が倒壊したことにより危険と判断され、避難所として開放されなかった。そこで学校体育館等が避難所として開放されたが、指定避難所の数自体が少ないということが今回の被災により判明したといえる。

指定管理施設の復旧まで…



クラブ概要

設立	平成13年4月23日
会員数	954人（平成28年度末現在／宇土市人口17,834人）
職員数	常勤職員5人、非常勤職員12人
事務局	〒869-0432 宇土市旭町504（宇土市民体育館内） TEL 0964-23-3493 FAX 0964-23-5148 メール info@uto-sc.jp
ホームページ	http://uto-sc.jp/

【サークル・教室・アカデミー・J（小学校部活移行クラス）・健康教室】
・サークル26種目、教室14種目、アカデミー7種目、J5種目、健康教室4種目、各種イベント
【宇土市スポーツ施設の指定管理者】
・平成20年度から宇土市社会体育施設（運動公園・体育館、宇土市スポーツセンター）の指定管理を受託している。
・現在宇土市社会体育施設指定管理者業務2期目、平成30年度からの3期目も受託決定している。



市役所が引っ越してきた宇土市民体育館



クラブスタッフが受付業務



倒壊した宇土市役所



山積みの物資



被災した武道場

— 施設の工事～課題～ —

業者が見つからない＝着工が遅れる＝クラブ再開の目途が立たない

災害認定などの関係もあり、業者選考が遅れたとのこと。

当初は、平成29年度からは体育館も再開できるだろうという話だったが、工事を行う業者が決まらないとのことで、結果的にメインの体育館がオープンするまでには1年5ヶ月を要した。

クラブでコレ
ははじめました！

パソコンデータを外部へバックアップ保存

地震により事務所がめちゃくちゃになったが、一番打撃だったのは、その後の災害復旧工事等の停電によりサーバーが壊れたこと。会員の情報や会計など、重要なデータが詰まっていたため、業者に依頼して復旧したが、全てのデータは戻らなかった。そのため、今後はそういったことがないように、クラウド等での管理を検討中。

「総合型地域スポーツクラブ」と、いわゆる営利団体との大きな違いは「地域のため」を大前提に考えていること。地域のために何が必要かを考え、マネジメントしていかなければいけません。クラブを支える「人」は貴重な存在です。

— 兼田 裕明 —



会議の様子

NPO 法人火の山スポーツクラブ



NPO 法人火の山スポーツクラブ
クラブ理事 兼 指導者
原部 静子氏

10 年前より阿蘇市に在住。クラブでは、ピラティス・クラシックバレエ・HIP-HOP ダンスの指導にあたる。クラブ内だけにとどまらず他団体での指導、海外の活動、ミュージカル出演に加え、他市に専用のピラティススタジオを構え講座を行うなど、幅広い活動を展開されている。

防災直後

4/14 21:26 前震発生
4/16 1:25 本震発生

本震発生後、体育館や公民館など、多くの方が避難していた。行政は様々な対応に追われていた。

4/19 報道関係者から行政に対し、「避難者への対応」について問い合わせが増え始める

この頃、益城町などで、特に車中泊している方がエコノミークラス症候群を発症し、死亡するなど、「避難者の心身のケア」が必要という状況だった。しかし、行政職員は皆帰宅もせず災害対応をしている中で、何と答えたら良いか…誰に頼めばいいのか…といった状況だった。(当時の災害対策本部より)

4/20 8:00 原部氏が避難者のケアについて窪田氏(行政)に問い合わせ(第1報)

原部氏 (仮称) エコノミークラス症候群予防運動として「火の山スポーツクラブ」で何かできることはないですか?なんでもいい!避難者のケアにいけないのでしょうか?勝手に行ってもいいのですか?]

窪田氏 「わかりました!ありがとうございます!活動をできる人をちょっと探していましたので、活動できるように行政内で調整させていただきます!折り返し連絡します!早速今日から活動できるということで OK ですか?助かります!

8:15 行政内で連絡調整

窪田氏: 窪田→総務課人事係→ほけん課(避難所運営責任者)→各避難所対応職員に連絡。了解が得られる。

9:00 原部氏へ折り返しの電話

窪田氏 「調整ができましたので本日 19 時頃から活動 OK です!一の宮小学校(避難所)へ来てください!身体ひとつで OK です!」

19:00 頃一の宮小学校にて運動指導

原部氏と窪田氏に加え、火の山スポーツクラブの山本副会長が体育館、駐車場、校舎中庭の3カ所を回って指導。避難者、職員も混乱していることもあってか「そんなことなくていい!」という避難者からの厳しい罵声もあったとのことだが、原部氏、山本副会長の思いが通じたのか厳しい罵声を浴びせた方も体操に参加していたとのこと。(原部氏…大感激)

4/21 以降

各避難所にて巡回指導(火の山スポーツクラブスタッフが交代で行う。)※当時の避難者数 6,272 人(H28. 4/20 時点※阿蘇市提供)



NPO 法人火の山スポーツクラブ
運営委員&行政
窪田 勇一氏

クラブ設立当初から携わる行政マン。スポーツ関連の主幹課から、現在は国際交流や移住定住関連を担当する経済部まちづくり課に在籍。また、高校の空手部よりインターハイや国体選手を輩出させる指導者という一面を持っている。車好きのクラブスタッフの一員。

Interview

Q1. 地震発生直後、最初に思ったことは?

原部氏 「誰一人死なせちゃいけない!」

エコノミークラス症候群による死者など、関連死についてニュースで見たとき「誰も死なせたくない」「何かしなくては!」と思った。九州北部豪雨災害のとき、個人で何かしようと思ったが、できなかった。しかし、火の山スポーツクラブという「組織」で動くことによって、支援活動ができたことが今回活かされた。

Q2. 行政とのやりとりで困ったことはあったか?

原部氏 「クラブと行政の日頃からの関わり」

全く困らなかった!普段からの関わりが功を奏して、行政内での調整はスムーズにしていた。あのと窪田氏に相談して本当によかった。していなかったら後悔していたはず!

Q3. 地震後、分からなかったことは?

窪田氏 「優先順位」

ライフラインに関する応急対応に追われている中、エコノミークラス症候群で病院に搬送される患者の報道が連日行われている。メディアからは「心身のケアについて対応措置をしているのか?」と問い合わせが殺到するなど、全てのことが同時に起こる中で、それぞれ管轄もあり、何から取り組むべきか、優先順位の判断が非常に難しかった。

Q4. 避難所への巡回指導を行って感じたことは?

原部氏 「日頃からのつながりが安心につながる」

日頃からプログラムとして行っている総合型地域スポーツクラブの活動や、日頃、ほけん課とのつながりでデイケアにもピラティスを教えるに通っていたため、避難所を回る中で、日頃関わっていた会員さんや高齢者の方々が私を見るなり「原部先生!」と声をかけてきてくれた。日頃から知っているから安心して対応いただけたと思う。

窪田氏「総合型地域スポーツクラブの存在の意義」

阿蘇市の当時の被害状況の中で、誰も成しえなかった「巡回指導」をいち早く実行に移せたのは「総合型地域スポーツクラブ」だった。これは「命をつないだ動き」である。決して大きな表現ではない。組織で動くことによって、より早く支援活動がすることができた。

クラブ概要

設立 平成20年2月24日
会員数 263 人(平成28年度末現在 / 阿蘇市人口 27,032 人)
職員数 常勤職員1人
事務局 〒869-2301 阿蘇市内牧 2052-2 TEL 0964-23-3493
FAX 0964-23-5148 メール hinoyamasc@yahoo.co.jp
ホームページ http://hsc.moo.jp/

【教室・イベント】・教室13種目、ゴルフコンペ等各種イベント

【クラブの特色】

・乗馬やゴルフなど、地域の資源を活用した珍しいプログラムが満載。
・阿蘇市主催のウォーキングイベント「大阿蘇元気ウォーク」では諸準備・運営を受託、さらに阿蘇市社会福祉協議会から高齢者運動指導を受託する等、行政との連携体制も構築されている。
・空き家を「クラブハウス」として活用。クラブマネジャーの住居・運営会議・情報交換会などをこのクラブハウスで全てを賄っている。(平成29年度の夏には日独同時交流受入事業でドイツ人2名を受け入れた実績をもっている)



左手前・森理事 右・原部氏



左・原部氏 右・山本副会長



左・山本副会長 中央・原部氏 右・松本クラブマネジャー



小坂会長



体操の様子



右・園田事務局長



車中泊している人たちに体操を呼びかける原部氏

「巡回支援活動～エコノミークラス症候群予防体操～」

4月20日～30日、5月3日～4日の計13日間実施。

訪問回数は、延べ21回(一の宮小4回、阿蘇小3回、阿蘇中3回、阿蘇西小2回、旧古城小1回、かんぼの宿6回、広域消防本部1回、農村環境改善センター1回) 実施決定後は、クラブマネジャーの松本氏が行政と調整して巡回計画を作成し実施した。

体操の Point

- ・身近にあるタオルを使う。 ・簡単に覚えやすく、毎日できるもの。
- ・深い呼吸をして前身を動かす。 ・高齢者が多いため、握力を使わない運動。
- ・ふくらはぎの血栓予防のため「ふくらはぎジャカジャカ」と命名して、タオルを使ったふくらはぎの血流、リンパの流れを促進させる運動を行った。
- ・1回の体操は10分間。

Point 1 行政としても、何らかの心身のケアができる人・団体を求めているときに、クラブ関係者からの声があったため、即座に対応された。

災害時には、①指揮官による統一された動きが必要であること、②不特定多数の支援団体が混在することによるトラブルも想定されるため、各担当者への周知徹底が必要であることをおさえておかなければいけない。

Point 2 原部氏は、エコノミークラス症候群による死者が他の地域で出たことをメディアで知り、一刻も早い対応が必要と思われ、行動に移された。

様々な団体がある中で、阿蘇市でこれまで公益的な活動をしてきた火の山スポーツクラブだったからこそ、発案したその日から実施できるというスピード感がある対応だったと思われる。

その背景には、九州北部豪雨災害のときの経験が活かされている。

クラブでコレ
はじめました!

発想の転換により…

地震後、ほとんどの体育施設が使用できなくなる。クラブのソフトテニス教室もその1つだった。

当時、ソフトテニスの指導者であった窪田氏は、阿蘇神社付近の商店街前の道路や常時人が集まる神社を使ってトレーニングをすることを企画し、実施した。その結果、数店舗の店主やらが首にタオルをかけてロードワークに飛び入り参加してきた。



ピラティスを活用して、体操を行いました。日々のつながり、意識がとても大事だと改めて感じました。地域密着の総合型地域スポーツクラブに所属していることで、私も心身共に救われました。日常の中で、クラブに所属している意識を高く持ち、今後も活動に励んでいきます!

— 原部 静子 —



震災前の阿蘇神社



震災後の阿蘇神社

クラブの所有施設と学校施設での活動

NPO法人桜木ふれあいスポーツクラブ



NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブ
クラブマネージャー

梶田 康代 氏

クラブ設立当時よりクラブマネージャーとして携わられており、日体協公認アシスタントマネージャー資格を取得されている。

専門はバスケットボールで、自身のクラブでも活動をされている。

「桜木ふれスポパーク」の建設

平成27年度の日本スポーツ振興くじ助成金をクラブが申請し、「桜木ふれスポパーク」を建設。

所在地 熊本市東区佐土原 3-11
TEL/FAX (096) 365-1338
コート ロングバイル人工芝コート、
ナイター照明有
・8人制ジュニアサッカーコート1面
(68m×50m)
・フットサルコート4面 (18.5m×30m)
営業時間 平日 15:00～24:00
土曜 10:00～24:00
日曜・祝日 10:00～20:00
駐車場 約20台
利用料 フットサルコート1面
1時間 7,000円(税込7,560円)
ジュニアサッカーコート全面
1時間 15,000円(税込16,200円)

Point 1

自前の施設を持っていたことにより、クラブの判断で会場が使用できた。また、会場を拠点に、他団体と連携して復興支援事業が早い段階で取り組めた。更に、近隣クラブとの日頃からの交流があったため、利用できる会場を他クラブとシェアするという連携に至った。

Point 2

熊本市は、もともと総合型地域スポーツクラブが設立した校区の小中学校施設について、夜間開放委託事業をクラブに委託している。また、使用についても、校区体協及び総合型地域スポーツクラブが年間で開催を優先確保できることから、今回地震後、小中学校の利用が再開した際も比較的使用しやすい状況であった。

Interview

Q1. 地震発生直後、最初に思ったことは？

「ライフラインの復旧」

水道が出ないため、トイレ、お風呂、料理ができない状況だったのが困った。避難所でトイレの使用が多いことから故障もあった。更に、避難所でのペットの管理など、避難所の衛生面は問題となった。

Q2. 一番多かった周りからの声はなんですか？

「困ったことをどこに連絡すればいいの?」「物資の取り扱い」

窓口が分からず、混乱する声が多かった。
また、昨日まで不足していたものでも、今日になったら多すぎて必要ないという状況だが、拒否できないという悩みもあった。

Q3. 自前の施設ならではの強みとは？

「桜木ふれスポパークの被害がなかった」

桜木ふれスポパークは比較的被害がなかったため、クラブの判断ですぐに復興支援事業やイベントを実施することができた。クラブ自前の施設だとクラブの判断で使われることが強みである。

一方、夜間開放の委託を受けている小中学校3施設は、体育館は避難所、運動場は避難者の駐車場となっており、学校と行政の判断を待つしかなかった。

Q4. 支援としてありがたかったことは？

「有名選手などの来場」

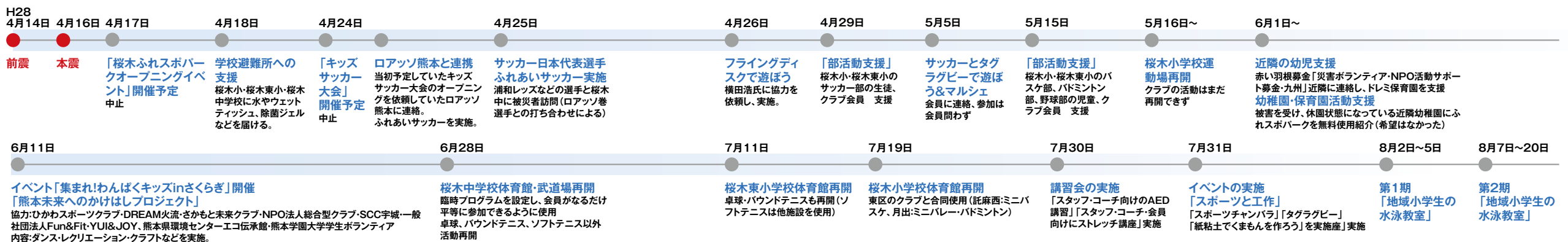
普段会えない有名選手などに来ていただき、支援いただいたことで非常に元気をもたらした。いつか恩返しをしたい。
(物資としては、布団や生活用品、飲食物の支援をいただけてありがたかった。)

Q5. 印象に残ったエピソードはありますか？

「全体の指揮、ボランティアの存在」

学校施設が避難所となっており、たくさんの知恵や工夫がなされていた。
中学校では卒業生がボランティアスタッフとなり、役割を決めて仕事をこなしていた。食事の支援は地域の方が美味しい食事を作ってくれた。配給場所はわざと距離をとり、被災者になるべく歩くよう工夫されていた。取りに行けない人には卒業生が運んでいた。
ボランティアがたくさん集まったとしても、「今、何をすべきか」、「全体の指揮は誰がとるのか」などが明確で統率がとれないと機能しない。各ボランティアの存在は非常に大きい。そして、「被災者も自分でできることは自分でやる」が基本である。被災者から支援者へ、地域の一体感も生まれていった。

地震後のクラブの活動



クラブ概要

設立 平成13年12月16日
会員数 385人(平成28年度末現在/桜木校区人口7,416人)
職員数 常勤職員2人
事務局 〒861-2101 熊本市東区桜木2丁目16-25
TEL/FAX 096-365-1338 メール sfsc@sakuragi-furesupo.or.jp
ホームページ http://www.sakuragi-furesupo.or.jp/

【教室】

・教室16種目

【クラブの特色】

・小学校運動部活動の社会体育移行について、既に野球部・サッカー部・剣道部をクラブに受入れている。
・自治会と共催で校区夏祭りやどんどこやを行うなど、地域と連携した事業を行っている。
・平成27年度にスポーツ振興くじ助成事業を申請され、人工芝グラウンドを設立された。県内で自前の施設を所有しているのはここだけである。



エス・エス・月出、東部地域スポーツクラブとの合同練習

集まれ!わんぱくキッズ in さくらぎの様子

「集まれ!わんぱくキッズ in さくらぎ ~他団体との連携、自前施設の有効活用~」

地震発生から約2ヶ月後の6月11日にイベントを企画・実施。

八代地域の総合型地域スポーツクラブ「ひかわスポーツクラブ」「さかもと未来クラブ」「DREAM火流」と宇城市の総合型地域スポーツクラブ「NPO法人総合型クラブ SCC宇城」、更に他団体である一般社団法人Fun & Fitや熊本県環境センターエコ伝承館等との連携により、復興支援イベントを開催。クラブ同志のネットワークにより、桜木ふれスポパークを活用した復興イベントを開催することができた。

実施内容 ・ダンス&子どもDJブース ・サッカー遊びブース ・レクリエーションブース(玉入れタイムレース等) ・その他(ママたち向けにハンドマッサージや子どもたちのためにひよこことふれあい等)

クラブでコレ
はじめました!

ミニバレー大会を開催予定

地震を機会に、近隣の仲良くなったクラブとミニバレー大会の開催を予定している。近隣での連携を今後も広げていきたい。

健康教室の開催

長年スポーツを楽しんできた会員の方が、熊本地震後に活動機会が減ったことにより、やる気をなくし、中には引きこもり気味になった方もいたため、少しずつ身体を動かしてほしいという想いを込めて、ストレッチやヨガなどの健康教室を開催した。怪我を防ぎ、好きなスポーツを長く楽しむため、健康教室は継続して行っており、今ではたくさんの会員が活動に復帰されている。

不足しているものはめまぐるしく変わります。古い情報をみて送られてきた支援物資は置き場に困るといった課題にもなります。ただ、せっかく支援していただいたものを返すわけにもいかないという状況になるため、



新しい情報と削除すべき古い情報の管理・発信が必要だと感じました。
— 梶田 康代 —

上下益城郡総合型地域スポーツクラブ会議

ツクラブ会議

背景

上益城郡は、熊本地震の震源であった益城町をはじめ、甚大な被災をした地域である。

熊本地震発生後、山都町で活動している山都ふれあいスポーツクラブの佐藤剛会長が「近隣クラブで何か助け合うことができないか」という想いから、上益城郡総合型地域スポーツクラブ会議を立ち上げられた。また、隣の下益城郡美里町からも声があり、現在は上益城郡と下益城郡合同で会議を行っている。



山都ふれあいスポーツクラブ
会長

佐藤 剛 氏

クラブ設立当時より会長に着任されており、平成26年度から熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の理事に着任。

平成28年度から29年度は理事長に着任され、県内の総合型地域スポーツクラブの発展に寄与されている。また、御自身では農家を営まれており、地元では消防団の副団長も務められるなど、地域貢献に尽力されている。

Point

会議の実施について発案されたのは山都町の総合型地域スポーツクラブだったが、上益城郡の中では比較的被災が少ない地域であった。

「地震の影響により会場が使えない」という地震の影響による課題に加え、自クラブだけでは解決できない指導者や財源の問題など、協働して解決できないかという想いから、上益城郡のクラブに声をされた。

クラブ概要

上益城郡

御船町 フネッピーすこやかスポーツクラブ

設立 平成18年4月27日
会員数 103人（平成28年度末現在／人口17,251人）
職員数 行政担当者2人
事務局 〒861-3204 上益城郡御船町大字木倉 1176-1（スポーツセンター内）
TEL 096-282-4111 FAX 096-282-4113
メール yfukunaga@town.mifune.lg.jp

甲佐町 I・YOU スポーツクラブ

設立 平成21年6月28日
会員数 76人（平成28年度末現在／人口10,908人）
職員数 行政担当者1人
事務局 〒861-4696 上益城郡甲佐町大字豊内 719-4（甲佐町教育委員会内）
TEL 096-234-2447 FAX 096-234-2957
メール shakai02@kosa.kumamoto.jp

山都町 山都ふれあいスポーツクラブ

設立 平成22年7月31日
会員数 163人（平成28年度末現在／人口15,680人）
職員数 常勤職員1人
事務局 〒861-3513 上益城郡山都町下市 33-1（山都町中央公民館内）
TEL 0967-72-0444 FAX 0967-72-2250
メール yamatofureaisc@kme.biglobe.ne.jp
HP http://www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/ijyuuhp/a0020/MyHp/Pub/

益城町 益城わくわくスポーツクラブ

設立 平成24年3月21日
会員数 189人（平成28年度末現在／人口33,054人）
※会員数については、地震発生前に申込み・更新手続きをされていた方の数である。
職員数 非常勤職員1人
事務局 〒861-4131 熊本市南区薄場2-6-1（リズムマーケット南校）
TEL 090-2855-6189 FAX 096-289-2434
メール mashiki_ws@yahoo.co.jp
HP http://mashiki-ws.com/

嘉島町 嘉島町総合型地域クラブ

設立 平成28年3月20日
会員数 0人（平成28年度末現在／人口9,149人）
※平成28年度は全プログラムが実施できなかったため、会員数は0人となっている。
職員数 常勤職員1人
事務局 〒861-3106 上益城郡嘉島町上島545（教育委員会内）
TEL 096-237-0058 FAX 096-237-1299
メール sougougata@outlook.jp
HP http://kps-y.sakura.ne.jp/sougougata/

下益城郡

美里町 元気・夢クラブ

設立 平成17年5月29日
会員数 125人（平成28年度末現在／人口10,502人）
職員数 非常勤職員1人
事務局 〒861-4405 下益城郡美里町萱野 745（美里町総合体育館内）
TEL 0964-46-4141 FAX 0964-47-6911
メール mar_11912241106@yahoo.co.jp
HP https://www.facebook.com/genki.yume.club/



上益城郡の被災の様子

—上下益城郡総合型地域スポーツクラブ会議実績—

第1回 6月29日(木)
：上益城郡の総合型地域スポーツクラブが参集。
【議題】・各クラブの現状など（御船町・嘉島町・甲佐町・山都町）
・今後について

第2回 8月30日(水)
：下益城郡美里町も参加。
【議題】・上下益城郡で何ができるか。
・小学校運動部活動の社会体育移行について
・熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会次期理事について

第3回 12月21日(木)
【議題】・各クラブ、連絡協議会より情報提供
・南ブロック次期理事について
・クラブの近況報告について

第4回 3月20日(火)
【議題】・各クラブの課題
・小学校運動部活動の社会体育移行について
・上下益城交流会について

今後も2ヶ月に1回程度の実施をしていきたいとのこと。



クラブが集まるようになって…

大変なときだからこそ、総合型地域スポーツクラブ同士で知恵を出し、手と手を取り合っていくことで解決につながるアクションができると思われる。参加者は口々に、「こういう話がしたかった」「近隣クラブと話し合える機会があるのはありがたい」と述べられ、地域課題の解決のため、各クラブの特色を活かし、相互連携しながら地域を盛り上げていこうという機運が高まっている。

今後予定する 取組

専門家の派遣

I・YOU スポーツクラブ（甲佐町）が作業療法士をクラブのトレーナーとして起用したため、今後は上益城郡・下益城郡にも要請があれば派遣するとのこと。

スタッフ交流会の実施

上益城郡、下益城郡のクラブスタッフの交流を深め、クラブ運営の学びの機会にもしていきたいとの思いから、次年度はスタッフの交流会を行うことが計画されている。

他にも

クラブ同士で相談し合える関係性が築かれており、互いの主催イベントに参加するなどの交流が生まれている。

クラブ概要

設立 平成16年10月31日
会員数 163人（平成28年度末現在／天草市牛深地域人口13,609人）
職員数 非常勤職員1人
事務局 〒863-1902 天草市久玉町 5716-4（牛深総合体育館内）
 TEL 0969-72-6311 FAX 0969-72-6399
メール ushi-iki@iaa.itkeeper.ne.jp

【教室】

・教室9種目

【クラブの特色】

・0歳から96歳まで幅広い世代が集まるクラブ。「笑顔になれるクラブ」として、牛深の街づくりに貢献している。
 ・地域行事にクラブで参加し、牛深ハイヤ踊りをみんなで踊ったり、牛深の海でシーカヤックの体験を行うなど、地域を盛り上げている。



うしぶかイキイキクラブの活動拠点

天草市は、熊本県の南西部に位置し、美しく青い海や豊かな緑に囲まれた地域である。

うしぶかイキイキクラブの活動拠点は、事務局の所在地でもある牛深総合体育館。熊本地震発生時は、幸い被害がなかったため、通常通り活動を続けることができた。

緊急時どうするのか…？

「地震だけでなく、津波や火災など自然災害がクラブの活動中に発生した場合どうするのか」という声が挙がり、防災マニュアルを作成することとなった。

Point 1

ミニバスケの指導者がミニバスケの防災マニュアルを作成しようと考えているとの報告を受け、クラブとしても作成した方がいいのではないかと考えて作成した。

防災マニュアル作成にあたって、インターネット等でマニュアルを探し、それをもとに、クラブに必要な部分をピックアップし、実状と照らし合わせ、合成マニュアルと独自マニュアルを作成した。作成者は地元の消防団に属しており、防災意識が高く、知識も豊富な方で、マニュアル完成後の避難訓練や活動等には消防署の方々の協力を得た。



うしぶかイキイキクラブ
総務広報部長
山下 義治 氏

マニュアル制作者

平成22年に運営委員（総務広報委員）としてクラブに携わった後、24年に小学生以下を対象とした「陸上教室」の指導者に就任、25年から現在まで総務広報部長としてクラブ運営に尽力されている。本業は造園業。また地元の消防員としても活躍されている。

避難訓練の実施

会場：牛深小学校体育館にて、
参加者・参加人数：うしぶかイキイキクラブ バasketボール教室 小学生以下の男女18名、および指導者（50代）1名
内容：練習を始める前に子どもたちに避難経路など説明し、実施した。

ホームページにマニュアルを掲載しております。

<http://kumamoto-sports.or.jp/scs/reconstruction.html>



熊本県総合型 地域スポーツ クラブ連絡 協議会の取組

～今こそ絆！復興事業～

- 18 vol.1 研修会
クラブから盛り上げよう!!
熊本地震からの復旧・復興にむけて
- 22 vol.2 県内クラブ交流事業
リセット!そしてスタート!
- 26 vol.3 補助事業
ブロック別復興事業補助事業

- 30 vol.4 研修会
明日へつなごう、みんなの「わ」
- 34 vol.5 イベント
火の君に集え!!
震れても揺れるな心と体
“目指せ復興”
- 38 vol.6 報告書
「熊本地震発生からの歩み」作製

クラブから地域を盛り上げよう!!



概要

平成28年10月8日(土) 午後1時～午後5時

熊本地震発生後、県内の状況・情報を収集する中で感じた被災地と大きな被災がなかった地域での温度差がありました。被災した地域では、この頃地震発生から半年経たない状況で混乱が続いており、被災が少ない地域では「何をしたらいいのか、何が支援なのかかわからない」という声がありました。

そこで、これから復旧・復興のために踏み出すためにも、もっと知ることや自分事に考えて行く必要があると考え、この研修会実施に至った。



ながすクロスロード研究会
徳永 伸介 氏

長洲町在住の消防士。地域の小中学生を対象に、サッカーやフットサルのコーチを務められる一方、NPO法人長洲にここにクラブの会員としても、地域住民としてスポーツを通して親交を深められている。

なお、長洲町の防災ボランティアグループ(NDF)や「ながすクロスロード研究会」に所属されており、町内外の防災活動や熊本地震の復興支援活動にも関わられていることから、様々な防災企画や研修の講師を数多く勤められている。

<所持資格: 日本サッカー協会公認C級コーチ、救急救命士、防災士>

研修 「緊急事態!あなたならどうする?」

～熊本地震、運命のクロスロード～

「クロスロード」とは?

災害対応カードゲーム教材「クロスロード」は、カードを用いたゲーム形式による防災教育教材である。

ゲームの参加者は、カードに書かれた事例を自らの問題として考え、YES か NO かで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、ゲームを進めていく。



熊本地震からの復旧・復興にむけて

内容

【プログラム】

13:15 ファシリテーター紹介
13:20 クロスロードの説明
13:30 クロスロード体験
14:10 休憩
14:15 ファシリテーター体験
「クロスローダー育成」
14:45 振り返り
14:50 終了

【災害の歴史を振り返る】

1995年 阪神淡路大震災
2014年 広島土砂災害
2012年 北部豪雨災害(九州)
2011年 東北大震災
2004年 中越地震⇒中越地震の復興が熊本震災の復興のお手本になるのでは? 長洲町でも、1792年に島原大変肥後迷惑の大津波が起っている。

【クロスロードの説明】

5人1組になり、質問に「YES」「NO」で答え、そのカードを出した意見を一人ずつ述べる。

Q. あなたは「救急隊員」です。
ガレキの下から家族が救出された。
父親と母親は重症だが、手術すれば
助かりそうだ。一方、子どもは心肺
停止状態。両親から運びますか?

— YES (する) or NO (しない) —

A グループの答え

- 助かる方から運ぶ
- 助かる命から運ぶ
- 心肺停止状態だけど、助かる可能性もあるので子どもから助ける
- やるだけのことをやる。

徳永氏の答え

救急隊の場合「助かる命から救う」というトリアージ(フランス語で『選別』)を行い、両親から運ぶ。子どもも助けるためにも市民が“心肺蘇生法”をできることが大切。

クラブの活動中で何かあった時の対応は
できていますか?
自助、公助、共助の役割が大切なのでは
ないでしょうか?

質疑応答

Q1. クロスロードの問題はいくつありますか?

A1. クロスロードは、商標登録されており、正式な認定
〇〇編も多くある。熊本地震編も作れると思う。

Q2. ファシリテーターになるにはどうしたらいいですか?

A2. 熊本でもファシリテーターの養成講座を行っていく予定。
まずは、何度かクロスロードを体験することから始めてほしい。

Q. あなたは「避難所運営担当」です。
ここには避難者が3000名いる。現
在、2000食分の非常食が確保でき
た。以降の見通しは今のところない。
非常食を配布しますか?

— YES (する) or NO (しない) —

A グループの答え

- 実際、益城でも最初は人数分なく、後で余る事になり食料を破棄した。
- 優先順位を決める。(子ども、お年寄り)
- 実際に、食の問題は難しかった。
- 食料がない分、自宅の冷蔵庫にある物を持って来たりして分けることもできたかも?
- 食料がいき渡らないところを、実際に車で移動して確認し、行政に教えるなど、行政にはできない事をした。

集計表		グループ		
問	問 題	YES	NO	メモ
1	救援物資が来た。残す?	1	4	
2	インフルエンザ流行! 自宅に閉る?	1	4	
3	津波まで20分 助ける?	3	2	
4	深夜の避難勧告! すぐ避難する?	3	2	
5	愛犬も避難所へ連れて行く?	2	3	
6	非常持出し袋 開ける?	3	2	

休憩後は、別の方と6人1組になり後半戦をはじめ。後半は、判断力を問われるゲーム。何が正解で何が不正解かがなく「モンモン」している状態がこのゲームの良いところ。1人がファシリテーターになり進めていく。問題は全部で6問。各自理由を含めて答える。



講演「復興は生活ではなく、心」

内容

災害前

陸前高田市体育協会は、「総合型地域スポーツクラブ」について話し合いを重ねていたが、町ごとの体育協会活動が活発だったこともあり、立ち上げには至らなかった。

3月11日

東日本大震災の被害により、町は壊滅状態となった。陸前高田市は人口 23,302 人のうち死者は 1,602 人、行方不明者は 205 人、合計 1807 人が命を失った。運動施設も、震災前は、野球場やスポーツドーム、B & G プールや市内の小中学校の施設等たくさんあったが、震災後はスポーツドームだけとなった。

震災で

家族や親戚を失った人。友達を失った人。家や仕事を失った人など、様々な境遇の人たちが、日々の生活を送るだけで精一杯だった。

人間らしい生活とは

日常が戻るにつれ、「衣食住」を確保することだけではなく、芸術やスポーツ等による「心の潤い」を求める気持ちを持ちながら生活することではないかと思うようになった。

総合型りくぜんたかたの設立

スポーツをしたい! という子どもたちの声にこたえ、「だれもが、いつでも集える場・機会をつくりたい!」平成 23 年 11 月にクラブを設立し、平成 24 年 4 月に法人格を取得した。



NPO 法人総合型
りくぜんたかた
アシスタントマネジャー
戸羽 理智 氏

東日本大震災後設立した「総合型りくぜんたかた」のアシスタントマネジャーとして勤務。
また、岩手県ジュニア選抜チームコーチ（バレーボール）を 4 年務められている。
なお、日本女子体育大学を卒業され、その後、岩手県内の中学校臨時講師（保健体育）として勤務された。結婚後、仕事をしながら地元のバレーボールスポーツ少年団の指導 10 年、中学校外部コーチ 5 年務められた経歴をお持ちである。
＜所持資格：教員免許＞

思いが大きく、でも「ない」が先行

あれもしたい…これもしたい…と背伸びをしたものの、指導者がいない、場所がない、人が集まらない。そして、地域の人からは、交通手段がない、時間がないとの声が挙がってきた。また、一番の問題は、総合型クラブが知られていない状況だった。

十分でなくても

しかし、会員から「今自分たちができる事をコツコツと小さくてもやり続けることが大事なのでは」との声があった。

考え方を変えてみる

人が集まる、来てくれるのを待つのではなく、出向くことでキッカケづくりをと、「玉入れタイムレース」を考案。また、安全な場所を探しながら、「ノルディックウォーキング教室」や隣市のプールにて水泳教室を実施している。

震災から 5 年

まだまだ工事が行われているが、色々な計画が描かれ、市の中心となる商店街ができることになっている。

そしてクラブは

会場が手狭になるほど参加者が増大している。

まとめ

この 5 年間、参加者と接することで心の変化を感じとることができた。

そして、「復興」とは、町ができ、生活が元に戻った時ではなく、地域の方々が前向きに自ら活動しようとする「気持ち」を持った時ではないかと思う。

「玉入れタイムレース」とは？

3 メートルの距離を順番に往復しながら、高さ 2.15 メートルの籠に計 30 個の玉を入れ終えるまでのタイムを競うゲームで、NPO 法人総合型りくぜんたかたが考案したスポーツである。

東日本大震災後、スポーツ施設も含め多くの施設が被災した中で、狭いスペースでも実施可能で、様々な年代の方にも楽しめるスポーツとして広められている。※ルールブックもある。



参加者の声（抜粋）参加者 60 人 内アンケート提出 40 人（回収率 66%）

- 今回の熊本地震により、我がクラブ、町全体が大きな被害を受けました。「復興」という言葉は実際にどうなることが復興であるのか？どのような未来に向かっていくのか、何も見えないままひたすら進んできたように、4 月 14 日からのことを振り返りながら研修の時間を過ごしました。クラブの役割、地域でのあるべき姿を描くことが地域復興につながっていく、そう確信しました。元気をもらった研修会でした。
- とても勉強になりました。各地区（県北、県央、県南等）で定期的の実施してもらえればよいと思います。
- クロスロード、大変よかった。玉入れも大変楽しかった。
- 現実起こりうる問題ばかりで、とても参考になりました。内容もとてもよく、勉強になりました。
- いろいろな状況が考えられていて、少しずつ読み深めていかないと状況が把握できないのが、本当に参考になりました。自ら動く力がなくならないようなサポート、親としての感覚で取り組まなければならないという言葉が刺さりました。

↓ 本事業の報告書を本協議会ホームページにアップしていますので、ご覧ください。

<http://kumamoto-sports.or.jp/scs/reconstruction/report.pdf>



交流事業 | リセット!そしてスタート!

背景

- ◇ **例年行っていた県内クラブ交流大会**
例年、11月に「県内クラブ交流大会」を実施しており、約1000人のクラブ関係者で様々なスポーツやレクリエーションなどの交流を行っていた。
- ◇ **スポーツ施設が利用できない**
熊本地震発生後、多くのスポーツ施設は避難所となり、中には施設自体が被災した影響により修理が必要な状況であったため、スポーツ施設の利用自体が不可能な状況となった。
- ◇ **クラブ会員の募集ができない**
地震の影響により、活動ができない状況や会場が使えない状況となり、各クラブ会員募集も難しい状況だった。
- ◇ **スタッフも披露困憊**
クラブスタッフ自身が地震後それぞれの立場で復興事業や生活再建に追われ、心身ともに疲れきっていた。

概要

平成28年11月19日(土) 午前10時～午後8時
熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会では、クラブスタッフの癒やしの場・交流の場を設定したいという想いから、交流会を企画した。
スポーツ施設での交流はできない状況でもあったため、使用施設はキャンプ場や温泉施設をもった「四季の里旭志」を借用した。



全体会 「ペットボトルでピザ作り体験」 ～楽しく・美味しく食育&防災について学ぶ～

震災時、ガスや電気が使えない状況があったため、廃材や木炭を熱源に調理できる食事と、「生きる力」の知恵を学ぶ思いから、講師を招聘して楽しく、おいしく学ぶペットボトルピザ作りの体験を行った。



一般社団法人夢・理想の里
事務局長
原 健史 氏

一般社団法人夢・理想の里は玉名市天水町にあるみかん畑の耕作放棄地を有効活用した地域コミュニティハウス【小天オレンジテラス】を拠点として活動されている。
食育・木育・体育・環境教育・アウトドアを基本とする参加体験型学習施設となっており、最近では、出前講座が人気とのことである。
その他「みかんの里プロジェクト」～剪定木の有効活用～というコミュニティビジネスも事業展開中され、平日は、指定管理者施設2館の館長も兼務し、地域主体の施設運営を推進し、管理・運営している。



分科会 1 「エコノミークラス症候群予防セミナー」 ～震災が人体に及ぼした影響の理解と対策～



震災後、「エコノミークラス症候群」による死者等の報道が相次いだ。
しかし、現場では実際どうすればエコノミークラス症候群を予防できるのか、そもそもエコノミークラス症候群のメカニズムとは何か知らないという声があったため、本交流会のプログラムに設定した。



一般社団法人志誠会マチと
医科学研究所
代表理事長
河野 真介 氏

代表理事の河野氏は、理学療法士であり、福岡市西区の整形外科病院及び同法人が運営するスポーツ医科学研究所にて、児童からプロアスリートまでのリハビリを行っておられた。
熊本に帰郷後、独立し、講演活動を行う傍ら、複数のリハビリ型介護施設のデザイン、プロデュースを行い、本年10月から子どもの発達のためのリハビリ療育ラボを開設された。
県内の総合型クラブとも連携事業等行っている。



一般社団法人マチと
医科学研究所
マネージャー
花田 恭祐 氏

福岡県北九州市出身
平成25年理学療法士免許を取得。熊本市のリハビリテーション病院に勤務し、様々な症例(脳血管・整形・神経難病等)のリハビリテーションに従事する。河野氏と出会い、理学療法士が地域に出ることが一番の障害予防の手段であることを学び、地域貢献・まちづくりに魅力を感じる。病院勤務と並行してマチと医科学研究所に所属。
現在は河野代表の下、リハビリ型支援施設に勤務し、子どもから高齢者まで幅広い年齢層に対し、スポーツ指導やダイエット等分野を問わず地域への障害予防・健康意識の高めるきっかけづくりに励んでいる。

分科会 2 「ノルディックウォーキング体験」 ～楽しく皆で歩きましょう～

山都ふれあいスポーツクラブは、平成22年に設立し、上益城郡山都町で活動しており、クラブでもノルディックウォーキングを行っている。

東日本大震災を経験した岩手県陸前高田市の総合型クラブ「NPO 法人総合型りくぜんたかた」が震災後行った事業の中にノルディックウォーキングがあったため、今回の体験プログラムとして導入した。



山都ふれあいスポーツクラブ
クラブ指導者
木村 市子 氏



山都ふれあいスポーツクラブ
クラブマネージャー
宮崎 玲子 氏



山都ふれあいスポーツクラブ
クラブ指導者
松本 洋一 氏



レクリエーション プログラム1

「リラックスヨガ体験」

～心と身体を開放し、豊かな時間を…～

各地域で、震災からの復旧・復興のために頑張るクラブ関係者らスタッフは、心身共に疲れているため、少しでもリラックスする時間をとの想いで「リラックスヨガ」を実施した。

また、岩手県のNPO法人総合型りくぜんたかたでも震災後ヨガを実施されていることを参考にし、本交流事業のプログラムに入れた。



ヨガ・体幹トレーナー
平田 裕美 氏

ヨガや体幹トレーニング、パーソナルトレーニングを通して、その人が本来もつ身体の機能を引き出し、ココロとカラダの心地よさを伝えている。

現在、宇城市小川町にボディケアスタジオ「Laugh（ラフ）」を構えて活動をする他、出張レッスンとして、お寺や地域の公民館、小中高校生らへの指導も行っている。

熊本にてモデルとしても活動しており、自身の知識をセルフケアに活かした活動を展開されている。



レクリエーション プログラム2

「玉入れタイムレース」～ブロック対抗で体を動かそう!～

県北・県央・県南の県下全域からの参加者を振り分け、岩手県「NPO法人総合型りくぜんたかた」が考案した玉入れタイムレースを実施した。

このときの玉入れタイムレースの用具については、全国から御支援いただいた支援金から3セット分購入した。事業実施後、県内3ブロックに1台ずつ分配し、各ブロックで使用している。



第2部 「語ろう会」

運動した後はみんなでバーベキュー！

参加者同士で震災後の話をしたり、他愛のない話で時間を忘れるほどだった…。

こういった何気ないリフレッシュの時間が必要だったのだと、改めて感じた1日だった。



Point スポーツ施設以外での交流事業実施

震災の影響で県内のスポーツ施設の利用が困難だったため、本交流事業は「四季の里旭志」という温泉やキャンプ場等がある複合施設を活用した。

クラブスタッフのために

日頃地域のために頑張っているクラブスタッフのために、心身共にリフレッシュ、リラックスしてほしいという想いから、講師や指導者はなるべくクラブ以外の専門の方をお願いした。ノルディックウォーキングのみ、比較的被害が少なかったクラブ関係者に依頼した。

参加者の声（抜粋）参加者89人 内アンケート提出49人（回収率53.9%）

- お疲れさまでした。参考になりました。ありがとうございました。
- 今回の研修会は、非常によかった。体験する研修会は準備される方が大変と思いますが、今後につながるの
で続けてほしいと思います。事務局の方々、お世話になりました。
- 楽しかったですーす！しっかり交流できました！



↓ 本事業の報告書を本協議会ホームページにアップしていますので、ご覧ください。

<http://kumamoto-sports.or.jp/scs/reconstruction/h28koryu.pdf>



ブロック別復興事業補助事業

概要

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会では、県内を3つのブロックに分けており、本協議会設立当時から、ブロック内での連絡調整会議や交流会を実施してきた。

熊本地震発生により、3ブロック全てが被災したため、より地域のためになる復興事業は何か、本協議会理事会で検討した。その結果、それぞれのブロック内でも、甚大な被災をした地域と、全く被害がなかった地域とに差があることから、ブロック全体で復興に向けた取組を考えるため、各ブロック毎に復興事業を企画していただき、そこに補助金を出す方法で復興事業を実施することにした。

北ブロック 企画事業

「みんなで南阿蘇鉄道に乗って 南阿蘇を元気にしよう!」

背景

熊本地震発生により、被災前は全線 17.7km に対し、現在復旧している区間は約 7km。特に立野～長陽間は、2 つのトンネルで内壁の崩落や亀裂が見つかり、鉄橋の橋桁も損傷、線路は 250m にわたって流出している状況であった。

被害額は数十億円にのぼるとみられ、鉄橋の架け替えが必要になるとさらに復旧費用が膨らむとも考えられている。近くにはスイッチバックで有名な JR 立野駅があるが、運転再開がいつになるか想像もできない状況。

そこで 7km だけ運行している南阿蘇鉄道（トロッコ列車）に乗車することにより、少しでも復旧に向けた手助けになればとの想いで北ブロック復興事業として企画された。



(被災後の南阿蘇鉄道)

内容

日時:平成 29 年 8 月 3 日 (木) 午前 11 時～午後 1 時 30 分

場所:高森駅

参加者:北ブロッククラブ関係者 44 人

内容:トロッコ 2 台を貸し切り、南阿蘇の雄大な自然を見てその素晴らしさを再認識するとともに、車掌さんによるアナウンスで地域の様々な歴史や被災状況も含めお話いただき、復旧・復興の様子や進捗状況もうかがい知ることができた。



中央ブロック 企画事業

背景

当初、中央ブロックでは、復興事業の一環として、被災地の方々と交流できないかと考え、仮設住宅の方を対象に、スポーツ交流（パークゴルフ・玉入れタイムレース）やバーベキューへの招待を企画された。

実施できなかった…

結果的に、仮設住宅への支援活動は実施できず、平成 29 年度の実施は断念した。

理由として、下記のような内容が挙げられた。

①仮設住宅への外部団体の出入りを非常に警戒されるケースがある

様々な団体が、「震災復興」「支援事業」ということで被災者に対して何か支援しようとするが、仮設住宅にお住まいの方は自身の家が倒壊するなどして住めなくなったために、その地を離れて様々な地域から仮設住宅に入所されているなどデリケートな状態で、その地域コミュニティの創生も課題となっている状況である。

②人員が制限される事業は周知が難しい

仮設住宅には数百名の住人が生活しているにも関わらず、人数制限のある事業については周知がしづらいため、自治体やそこを束ねる方が困るという声があった。

※中央ブロックは平成 30 年度に再度検討し、復興事業を計画・実施予定。

地震からの教訓!

「行政や自治会の判断」

本当に求められる支援とは何か考える必要がある。有事の際、判断や指示を出すトップは自治体となる。判断をする側としては、リスク管理の責任もあることから、仮設住宅への外部の受入れには大変慎重になる。

日頃から、行政や自治会、地域とのコミュニケーションを図り、クラブ自体への理解、認知いただくことで、趣旨や活動目的がより伝わりやすくなることが考えられると思われる。

南ブロック 企画事業

「熊本地震のプチ語り部になろうの会」

背景

熊本地震発生から時間が経つと共に、「風化」という課題が出てきた。
また、南ブロックで話し合われる中で、震災後、「被災地の状況が分からず、行きたいとは思っていたが、なかなか行くことができずにいる。」という声があった。
現地を見て、知ることにより、熊本の現状の話ができる人材を増やし、風化を防ぎたいという思いから、南ブロックで企画された。

実施内容

日 時:平成 29 年 10 月 28 日 (土) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

場 所:旧長陽西部小学校及び周辺被災地

参加者:南ブロッククラブ関係者 17 人

内 容:熊本地震語り部活動をされている「阿蘇の灯」(東海大学農学部)の協力を得て、南阿蘇の黒川地区(学生アパート)・阿蘇大橋崩落現場を巡り熊本地震や防災・減災について学ぶツアーを開催。南阿蘇村の食堂で昼食をとりながら、プチ語り部として本日の学びをどのように伝えていったらいいか、思い思いの意見が出され、目的がしっかり認識されていることが伺えた。



(2 代目代表 林風笑氏)

阿蘇の灯
～ Aso-no-Akari ～とは？

阿蘇の灯は学生団体として 2016 年 11 月に設立し、現在、大学 1 年生が 4 人、2 年生が 3 人、3 年生が 10 人、4 年生が 5 人の計 22 人で活動中。

活動内容として県内外での語り部、災害支援、南阿蘇の黒川地区と東海大生の交流会企画、灯籠イベントを行っている。

南阿蘇村に帰りたい、下宿の大家さんに会いたい、南阿蘇村との繋がりを無くしたくない、熊本地震のことを忘れて欲しくないといった思いから設立した。



初代代表

橋村 さくら 氏

東海大学農学部応用動物科学科
(卒業見込み) 静岡県清水区出身

熊本地震時は静岡に帰省していた為直接的な被害は受けませんでしたが、自身の無力感は今でもはっきりと覚えています。

その後 2016 年 5 月下旬から主に住んでいた黒川地区で現場ボランティア活動をしていただき、11 月に学生団体阿蘇の灯を設立しました。

この活動をきっかけに、人は無力ではなく微力である・1 番の被災は「人との繋がりが断たれること」を知ってもらえたら幸いです。

2 代目代表

林 風笑 氏

東海大学 農学部 3 年
大阪府出身
熊本地震では南阿蘇村黒川地区にて被災

Q. 語り部の依頼をしたい場合は？

A. 当団体の facebook、電話番号 (080-2696-7416) からお申込み可能です。

学生が行うため、主に休日の対応となります。

現地での語り部は 1 時間から 2 時間程の時間で、県外での語り部では交通費、宿泊費等を御負担いただきます。パワーポイントを主に用いて説明させていただきます。

復興事業の企画・実施に御協力いただいたみなさん、ありがとうございました！

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会は引き続き
本県の復旧・復興に向けた活動を企画・実施していきます。

明日へつなごう、みんなの「わ」

分科会 パネルディスカッション

1 「小学校運動部活動の社会体育移行」

「小学校運動部活動の社会体育移行」とは？

熊本県教育委員会が、平成27年3月に示した方針により、これまで学校管理下で行われている小学校運動部活動を社会体育に移行することが決定した。(熊本市は別途方針を示している。)

子どもたちの放課後の活動環境が変わることになり、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等がこの受け皿になることが考えられるため、本協議会でもテーマとして掲げた。

概要

平成29年9月2日(土) 午後1時～午後5時
「ウイングまつばせ」にて研修会を実施。
地域課題の解決に向け、行政関係者も含め、115人の参加があり、それぞれの立場から意見を出し合うなど、充実した研修会となった。



コーディネーター

公益財団法人熊本県体育協会
地域スポーツ部長
(クラブアドバイザー)
永田 好文 氏
元小学校校長

八代市総合型地域スポーツクラブ
「DREAM 火流」
理事長兼クラブマネジャー
北園 武広 氏
八代市小学校運動部活動の
社会体育移行コーディネーター
(H27.10～H28.8)



パネリスト

NPO 法人うとスポーツクラブ
理事長
安田 孝二 氏

NPO 法人長洲にここクラブ
クラブマネジャー
橋垣 真美 氏

NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブ
クラブマネジャー
梶田 康代 氏

宇土市は平成29年度から、長洲町は平成28年度から全小学校が社会体育に移行した。熊本市については県と別に方針が示されているが、桜木ふれあいスポーツクラブは一部の部活動をクラブが受け皿となったため3クラブから発表いただいた。

ファシリテーター

ひかわスポーツクラブ
クラブマネジャー
齋藤 久允 氏
(日体協公認クラブマネジャー資格取得)



分科会 ワークショップ 2 「今後のクラブ経営」

日体協公認クラブマネジャー資格をもつ齋藤クラブマネジャーのファシリテーションのもと、「クラブの運営・経営」について、財源確保をクローズアップしてワークショップを行った。

情報共有 各分科会のまとめ

各分科会の報告について、コーディネーターの北園氏、ファシリテーターの齋藤氏から説明があった。参加者でそれぞれの情報を共有した。

全体会 講演

「熊本地震からの地域復興とクラブの役割」

熊本地震発生直後の状況から現在に至るまで、クラブが行った活動や地域復興に向けてクラブが担う役割について御自身の体験を交え、御講演いただいた。

私が学んだこと

それは日ごろからの地域活動の大切さである。
日ごろから地域に関わっているからこそ、地震の時も、地域のあらゆる方々や団体と「みんなで一緒にやろう!」とっていただけたと思う。

組織間のネットワーク

熊本県は本当にクラブ間の仲がいいので、いろんなところに頼めば、私は絶対やってくれるという自信がある。「これだったら、〇〇さんに頼もう」「協力してほしい」と言い合える関係性、ネットワークってものすごいと思う。クラブで課題を話し合っ、連携による解決策が絶対出てくる。だから、クラブってすごいなと思うし、ネットワークの力ってあるんだなということを感じた。

この経験を伝えて、意見を交わしていくことを続けなければならないと思う。みなさんいろんなところで地震後のことを、他のクラブから聞いたことでもいいので、周りに伝えていってほしい。



NPO 法人クラブおおつ
ゼネラルマネジャー
斎藤 陽子 氏

参加者の声(抜粋) 参加者115名 内アンケート提出68名(回収率59.1%)

- 災害時の対応等をクラブでもマニュアル化する必要があると思いました。
- 震災後のクラブの復興への関わりや役割がよくわかりました。
- 私の地区は地震の被害はありませんでしたが、講演をきいてみて地震の怖さもわかったし、ボランティア活動も素晴らしいと思いました。 等

↓ 本事業の報告書を本協議会ホームページにアップしていますので、ご覧ください。

<http://kumamoto-sports.or.jp/scs/reconstruction/h29report.pdf>



火の君に集え!! 震れても揺れる



概要

毎年県内3ブロックで持ち回り開催をしている「県内クラブ交流大会」。本来であれば平成28年度に第7回大会を予定していたが、メイン会場の「熊本市城南総合スポーツセンター」には被災者が避難されており、施設自体も被災し、復旧が進んでいなかった。開催が可能かどうかの見通しが立たない状況だったため、開催を1年延期し、平成29年11月19日に開催した。大会プログラムの中に、復興事業の一環として「復興イベント」を実施した。

第7回県内クラブ交流大会実績

日時:平成29年11月19日(日) 午前9時～午後3時
場所:熊本市城南総合スポーツセンター
参加者:39クラブ約900人

↓本事業の様子を本協議会ホームページにアップしていますので、ご覧ください。

<http://kumamoto-sports.or.jp/scs/event.html>



な心と体“目指せ復興”



復興ライブ

「地元アイドル「エアリーセンス」ライブ」

大会の主管ブロックである中央ブロックの企画により、九州・熊本を拠点に活動中だった歌手「エアリーセンス」によるライブを実施した。本大会でライブを実施したのは初の試みであったが、参加者全体で盛り上がった。

復興講演会

「熊本県民テレビ(KKT)アナウンサーによる講演会」

熊本の夕方番組「テレビタミ」で有名な、もっちゃんこと本橋馨氏による講演会を行った。

熊本地震で被災した会場に、本橋氏の楽しい講演が始まると笑い声に包まれた。

ライブに引き続き、本大会で講演会を実施したのも初の試みであったが、お茶の間で有名なアナウンサーによる講演に終始参加者から笑いが絶えず、にぎやかな講演会となった。



復興プログラム

「玉入れタイムレース」

地震発生後から本協議会で用具を購入し、県内で広く活用している「玉入れタイムレース」北ブロック・中央ブロック・南ブロック対抗でレースを行った。

北はブルー、中央はレッド、南はイエローのカゴにボールを入れ、タイムを競った。



「復興リレー」

中央ブロックの企画で、熊本城再建をイメージしたパズルを作製し、ブロック対抗でリレーを行い、それぞれの熊本城を作り上げた。

「熊本地震発生からの歩み」作製



常任委員会・理事会・評議員会で協議している様子



概要

本協議会で様々な復興事業を考える中で、全国からいただいた温かいご支援に対する感謝と、本県で経験した熊本地震の被災状況や取組、課題、想いを伝えるためにも、何か形として残し、全国に発信してはどうかとの意見が出た。

そこで、本協議会加入クラブ及びその他関係団体に協力を依頼し、本報告書の作製に至った。

まだまだ復旧・復興への道半ばの熊本県であるが、少しでも皆さんのためになる情報をとの想いで、事務局から各クラブへの取材や聞き取りを行い、まとめた。



伝えたいこと

～ message ～

取材したクラブからの声

各地域の取組について紹介したクラブの方々、そして熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会加入クラブよりいただいた地震から得た教訓や生の声を掲載します。

地震発生後、様々な活動をする中で、そして振り返って感じたそれぞれの思いや教訓を今後にお役立ていただければと思います。

NPO 法人クラブおおづ（斎藤氏）

「体力が必要」

何かあったときのためにも、体力が必要であり、心身共に健康であるべき！自己管理の徹底が大前提！

「日頃からの意識」「地域連携」

日頃から町や他団体の活動を知る中で、「クラブとして協力できることはないか？」「役に立てることはないか？」という意識を持っておくことで何かあったときに協働できたり、すぐに行動に移すことができる。普段からの意識が大事。

特に行政との日頃からの関わりが普段あったからこそ、非常時に活動することができた。日頃から町の活動や町の団体との連携をしていくことが、非常時の活動もスムーズとなる。

NPO 法人火の山スポーツクラブ（原部氏、窪田氏）

「地域密着の強み」

いつも顔を合わせていることによってスムーズに活動を行うことができた。

行政は、緊急時に様々な対応に追われる。そんな中、地域密着型である総合型地域スポーツクラブが今回のように具体的な活動を行うことができたのは、日頃からの活動が知られていたからだと思う。

そして、このような活動をした経験を、より多くの人に伝え広めていくことが被災地のすべきことだと思う。

「マニュアル、システムがあることだけでなく、それを実施する人が必要」

マニュアルがあっても、それを実施する人、動かす人が必要。

また、支援活動を実施する人は元気で、できる方がすばしい。いつまでやるのかについても、予め決めて活動したほうがいい！

「〇〇だからできない→ ここならできる! の発想の転換」

多くの施設が被災し、避難者も詰めかける中であったが、体操を体育館の中だけでなく中庭や駐車場でも行った。「〇〇だからできない」という固定観念的なことから「では他の方法では？」「ここでならできるんじゃないか？」という発想の転換でより考えやすくなった。

NPO 法人うとスポーツクラブ（兼田氏）

「いかに仕事を見つけるか」

まず思った「クラブスタッフの雇用の確保」のため、とにかく何をすべきか、仕事を探し、分担した。

後にこれが行政との交渉の材料になるとの思いであった。（誰がいつ何を何時から何時までしたという記録を全て！）

「規約・定款の確認」

「一度納入された会費は返納しません」と記載していたが、やはり会員からはクレーム。でも説明の際に必要なのはこの根拠、ルール。今一度確認してみたほうがいい。特に、お金の話は落ち着いてからきっちり対応すること！対応に違いや差があると信頼を失いかねない。

「日頃からのつながりは大事!」

行政との関係について、「指定管理者」としての契約的な関わりだけでなく、日頃から市の課題やニーズを捉え、コミュニケーションをとっていたことで、良好な関係だった。

クラブの実績が買われ、信頼関係を築くことは、非常時にも強いと感じる。

NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブ（桝田氏）

「災害時に動ける組織が必要」

クラブ単独ではなく、地域の協力団体として、災害の際に対応できる組織が必要だと思う。

また、「誰の指揮で、どの団体が、どんな役割を受け持つのか」を明確にして組織化すべき。

「情報はめまぐるしく変わる」

不足しているものはめまぐるしく変わる。

古い情報をみて送られてきた支援物資は置き場にさえ困る。

せっかく支援していただいたものを返すわけにもいかないという状況になるため、新しい情報と削除すべき古い情報の管理・発信が必要。

他にも… 何が本当に必要なのか知る必要がある

様々な物資が送られてきたが、不必要なものの場合、結果的に処理に困るという問題がある。相手が求める支援が何なのか、把握してから支援策を考える必要がある。

クラブ内での連絡手段の見直し

緊急時は電話が繋がりにくくなったり、充電ができにくい環境となる。

また、電話だとかけたタイミングに相手がでることができず、情報が共有できにくい状況がある。

そんな中、託麻西校区総合型地域スポーツクラブ（熊本市東区）は、数年前に東日本大震災の被災クラブの方からの教訓を取り入れ、クラブ役員と指導者、その指導者と会員が日頃からメールでのやりとりができるようにしていた。そのため、震災発生後も各自と連絡が取れたとのことだった。

被害が少なかった地域の声

様々な復興事業に関する取組を御紹介したが、結果として何かしらの活動につなぐことができなかったと答えたクラブも複数ありました。

熊本県では、被害の状況に地域差があり、「何をすべきか」「できることはあるのか」という判断は非常に難しかったといえます。

「何もできなかった」 「何が必要なのかわからない」

- ・クラブ自体、直接的に被害を受けることなく、穏便に活動を続けていた。実際、経験をしていないので、何をどうすればいいのかわからなかった。
- ・震災直後にライフラインが途切れた状態で、比較的被害の少ない地域でできる具体的な支援の仕方のマニュアルがあればよかった。
- ・被災地への支援を行おうとしたが、被災地から受入を拒否され、何もできなかった。

「取りまとめる機関が必要」

- ・本当は、クラブ毎に復興支援を行うのが理想だが、軸になってくれる人がいないと難しい。
- ・情報の伝達が可能であれば、司令塔のように一カ所に情報を収集しそこから支援依頼を出してもらうのが一番確実であり、そのような仕組・組織をSCSが担うのが理想ではある。しかし、各個人は別の組織にも属しており（行政職員・消防団など）、支援依頼に即時対応ができるかは課題である。

「なんと言っても地域での認知度」

今回様々な地域での活動を取り上げたが、即行動・活動に移せたクラブというのは行政や地域団体との日頃からのつながりにより、認知度が高かったといえる。

有事の際、判断を最初の段階で、知らない団体の活動というのは受け入れられなかったり、受入れに時間を要したりする可能性が高い。

地域住民への認知度が高ければ高いほど、地域に受け入れられやすい状況が生まれる。各クラブの「認知度向上」に向けた具体的・効果的な取組を実施していく必要がある。

今後の取組

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会としては、今後も県内クラブのネットワーク構築、ひいては、緊急時にも横の連携ができる体制の構築を目指し、取り組んでいきたいと思います。

また、平成30年度は、九州ブロッククラブネットワークアクションが熊本県で開催される予定で、会場は熊本地震で被災した阿蘇市での実施を計画しております。

御来場いただく皆様に、熊本地震からの復旧・復興の様子を御自身の五感で直接感じ取っていただきたいと思います。是非熊本にお越しください。

熊本県総合型地域スポーツクラブ 連絡協議会事務局として

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

事務局担当：太田黒尚子（公益財団法人熊本県体育協会クラブアドバイザー）

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の事務局は、公益財団法人熊本県体育協会が行っている。連絡協議会事務局担当の私も自宅（宇土市）が被災し、避難生活を余儀なくされていたため、地震発生後約1週間、事務局への出勤ができなかった。

熊本地震発生から1週間以上経過し、職場に出勤したが、県内外の問い合わせに対応した。

また、総合型クラブへの支援物資が事務局に届いたため、被災が大きな地域のクラブに配付をすることとなった。

発生から2週間ほど経過した時、甚大な地震被害に見舞われた南阿蘇村の「クラブ南阿蘇」事務局の藤本氏に連絡がとれ、水がまだ出ない地域があることなどを直接聞き、車に乗るだけの荷物を積み込んで業務時間終了後に持参した。片道地震前は30分程度で着く道のりが、地震の影響により阿蘇大橋が崩落したことで2時間以上かかり、到着したときには辺りは暗くなっていた。

ただ、物資を届け、藤本氏とお会いできたことで非常に安心したと同時に、被災の状況を目の当たりにしたことで今後できることは全てやろうと思った。

私自身、車があり、運転ができ、動ける状況だったから物資を持って行くことができたが、誰もが「連絡協議会事務局」というだけでは物資を持って行くことはできなかったはず。こういったイレギュラーの際、誰がどう対応できるのかは全く想定していない状況だった。（※クラブアドバイザーとして出勤できない期間の人件費等保証はない。物資を運ぶことについても業務とは切り分けて個人的に実施した。）

「判断できなかった」

前震、本震に続き、毎日続く余震。

私は職場に出勤できない間、居住地である宇土市のボランティアに登録し、日々物資の仕分けや避難所での活動を行っていた。

今後の見通しが立たない中で、県内外のクラブ関係者から個別に太田黒あてに問い合わせが続き、対応に追われた。「〇〇クラブに連絡を取りたい」「支援金を振り込みたい」「支援物資でどこに何が足りていないかわかるか」など、問い合わせ内容は様々だった。

当時、出勤できていない状況であり、更にまだまだ余震も続き、ライフラインも復旧していない地域や死傷者が出ている市町村もあったことから、クラブへの連絡ができる状況ではなかったため、何も答えられない状況だった。



クラブ南阿蘇に物資運搬
左・クラブ南阿蘇 藤本氏
右・太田黒

「事務局の機能」

県連絡協議会の一事務局担当の自分が何をどこまで判断していいのかわからず、回答を急がされるものもあり、非常に困った。中には、「県事務局がしっかりしないとどうするの!」という指摘もあり、何をすべきなのか悩んだ。相談したのは、東日本大震災で被災した県のアドバイザーやクラブ関係者であった。

非常時のマニュアルや連絡体制など、本協議会では何も整備できていなかったため、緊急時に備えた連絡体制の構築が必要であると痛感した。



倒壊した宇土市役所



避難した宇土市民グラウンド



左・妹 右・宇土市にボランティアに
来られたひかわスポーツクラブの齋藤氏



地元高校生らも物資配付

【九州ブロッククラブネットワークアクション 2018in くもと】※予定

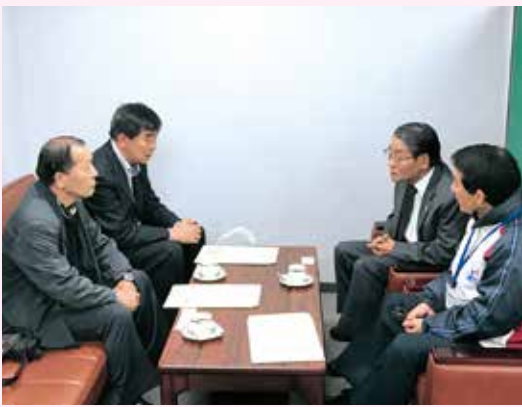
期日：平成 30 年 11 月 17 日（土）～ 18 日（日）

場所：阿蘇の司ピラパークホテル（住所：阿蘇市黒川 1230）

内容：熊本地震からの復興、各クラブ特色ある取組の紹介など

本協議会あて支援金・物資等の 御支援いただいた団体・個人（敬称略）

都道府県	団体名・氏名
北海道	多寄スポーツクラブ
宮城県	特定非営利活動法人アクアゆめクラブ
宮城県	一般社団法人ボディジャンプ
群馬県	群馬県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
群馬県	NPO 法人新町スポーツクラブ
群馬県	特定非営利活動法人伊勢崎西部スポーツクラブ
埼玉県	特定非営利活動法人浦和スポーツクラブ
新潟県	NPO 法人希楽々
富山県	NPO 法人 SIBU スポーツクラブ
岐阜県	ぎふ清流の国 SC ネットワーク
岐阜県	ぎふ清流の国 SC ネットワーク 副会長 北倉 利治
愛知県	認定 NPO 法人朝日丘スポーツクラブ
三重県	NPO 法人楠スポーツクラブ
京都府	京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
兵庫県	兵庫県加古川市立神吉中学校
奈良県	NPO 法人元気クラブいかるが
和歌山県	和歌山県クラブアドバイザー 田林 由加
和歌山県	NPO 法人ゆうゆうスポーツクラブ海南
広島県	広島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
山口県	わいわい卓球クラブ 代表 弓取 康英
山口県	クラブリンク JAPAN
徳島県	一般社団法人 NICE 代表理事 神田 真奈美
徳島県	徳島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
香川県	香川県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
福岡県	福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
長崎県	長崎県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
熊本県	第 11 回全国スポーツクラブ会議 in 熊本なんかん開催地実行委員会 (NPO 法人 A-life なんかん)
熊本県	NPO 法人上天草スポーツクラブドリームズ
大分県	SC おおいたネットワーク
大分県	賀来衆倶楽部
大分県	川添なのはなクラブ
大分県	NPO 法人わいわい夢クラブ
宮崎県	NPO 法人東大宮スポーツクラブ
鹿児島県	鹿児島県コミュニティスポーツクラブ連絡協議会



京都府総合型地域スポーツクラブ連絡協議会は、全国で発生した自然災害による被害に遭った方々への追悼と復興をテーマに、「キャンドルナイト～スポーツでつなぐひかりの輪」を実施されました。

本協議会あてにもお知らせいただき、本協議会加入クラブからもメッセージやイラストを提出いただき、キャンドルを灯していただきました。



あたたかい御支援、ありがとうございました！
本県の復旧・復興に活用させていただきます！

徳島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会から特産のすだちなどを送っていただきました。

また、3月に毎年実施されている「総合型地域スポーツクラブ交流大会 in 徳島 2017」に、本県クラブを御招待いただき、本協議会加入クラブで NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブが参加し、徳島県の方々と交流しました。

	NO	クラブ名	住所	TEL	FAX	メールアドレス
北	1	NPO 法人クラブきくよう	〒 869-1103 菊池郡菊陽町久保田 2598	096-273-8488	096-273-8639	office@sports-kikuyo.jp
	2	クラブこうし	〒 861-1116 合志市福原 2922（合志市総合センターヴィーブル内）	080-5202-2454	096-248-5450	club2454club2454@yahoo.co.jp
	3	NPO 法人クラブおおづ	〒 869-1217 菊池郡大津町森 1000（大津町運動公園内）	096-294-2922	096-294-2922	clubozu150427@yahoo.co.jp
	4	中央ふれあいスポーツクラブ	〒 864-0042 荒尾市東屋形 2-10-13	0968-62-1722	0968-62-1722	dgd128363@lep.bbiq.jp
	5	なごみだっでんクラブ	〒 861-0913 玉名郡和水町板桶 76 番地（三加和公民館内）	0968-34-3047	0968-34-2033	tk-ijima@town.nagomi.lg.jp
	6	やまが総合スポーツクラブ	〒 861-0511 山鹿市熊入町 416 番地（山鹿総合体育館内）	0968-43-0093	0968-43-0091	itohidetoshi2000@yahoo.co.jp
	7	NPO 法人 A-life なんかん	〒 861-0803 玉名郡南関町大字関町 1283	0968-57-9616	0968-57-9617	info@a-life-npo.com
	8	クラブ南阿蘇	〒 869-1404 阿蘇郡南阿蘇村河陽 3575（長陽中央公民館内）	0967-67-0182	0967-67-3352	c-minamiaso@trad.ocn.ne.jp
	9	NPO 法人火の山スポーツクラブ	〒 869-2301 阿蘇市内牧 2052-2	0967-32-1441	0967-32-1441	hinoyamasc@yahoo.co.jp
	10	NPO 法人長洲にここクラブ	〒 869-0112 玉名郡長洲町姫ヶ浦 1 番地（長洲町総合スポーツセンター内）	080-4693-3492	0968-57-9572	nagasunikonikoclub@yahoo.co.jp
	11	ヴィーブル FUN クラブ	〒 861-1116 合志市福原 2922（合志市総合センターヴィーブル内）	096-248-5555	096-248-5450	vivre_fun_club@yahoo.co.jp
	12	オレンジはあとクラブ	〒 869-0312 玉名郡玉東町白木 1-1（玉東町中央公民館内）	0968-85-3609	0968-85-2276	imuta-h@town.gyokuto.lg.jp
	13	小国ゆうあい倶楽部	〒 869-2501 阿蘇郡小国町宮原 214-2（小国ドーム内）	0967-46-5551	0967-46-5551	ognyc5551@circus.ocn.ne.jp
	14	産山ヒゴタイ・スポーツクラブ	〒 869-2703 阿蘇郡産山村大字山鹿 488-3（産山村教育委員会内）	0967-25-2214	0967-23-9670	eisaku-t@ubuyama-v.jp
	15	高 SPO	〒 869-1601 阿蘇郡高森町大字高森 2168 番地（高森町教育委員会内）	0967-62-0227	0967-62-2685	sumiyoshi.k@town.kumamoto-takamori.lg.jp
中	16	日吉地域総合型スポーツクラブ	〒 861-4101 熊本市南区近見 5 丁目 1-1（日吉東小学校体育館内）	—	—	—
	17	NPO 法人桜木ふれあいスポーツクラブ	〒 861-2101 熊本市東区桜木 2 丁目 16-25	096-365-1338	096-365-1338	sfscc@sakuragi-furesupo.or.jp
	18	ほくぶ総合スポーツクラブ	〒 861-5521 熊本市北区鹿子木町 53-1（川上地域コミュニティセンター内）	096-245-0252	096-245-3555	kawakami.ko m isen@kpd.biglobe.ne.jp
	19	龍田地域なかよしスポーツクラブ	〒 861-8007 熊本市北区龍田弓削 1 丁目 15-22	096-339-0250	096-339-0250	tetsuro.nishijima@gmail.com
	20	長嶺地域スポーツクラブ	〒 861-8039 熊本市東区長嶺南 7 丁目 21-40（長嶺中学校体育館内）	096-360-4044	096-360-4044	nagamine.sports.club@abeam.ocn.ne.jp
	21	川尻スポーツクラブ	〒 861-4115 熊本市南区川尻 4 丁目 1-1（川尻小学校体育館内）	—	—	inoue.masafumi@city.kumamoto.lg.jp
	22	花園スポーツクラブ	〒 860-0072 熊本市西区花園 5 丁目 53-8	096-354-8180	096-354-8180	hanazono.sc@leaf.ocn.ne.jp
	23	東部地域総合型スポーツクラブ	〒 862-0901 熊本市東区東町 4-15-1（東町中学校内）	096-368-5311	096-368-5311	toubu-sports@ari.bbiq.jp
	24	NPO 法人スポレク・エイト	〒 860-0064 熊本市西区城山半田 4 丁目 16 番 1 号	096-200-8014	096-200-6041	sporec8@iwa.bbiq.jp
	25	天明総合スポーツクラブ	〒 861-4122 熊本市南区美登里町 879-1	096-223-2408	096-223-2408	kp342553@za3.so-net.ne.jp
	26	城北スポーツクラブ	〒 861-8064 熊本市北区八景水谷 4-5-45-101	096-346-3777	096-346-3777	mayumitnk-0307@jcom.zaq.ne.jp
	27	帯山地域スポーツクラブ	〒 862-0924 熊本市中央区帯山 4-11-11（帯山小学校体育館内）	080-1533-2967	—	obiymatiiki.sc@jcom.zaq.ne.jp
	28	エス・エス・月出	〒 862-0920 熊本市東区月出 7 丁目 1-6-403	096-385-2362	096-385-2364	naguma@ab.auone-net.jp
	29	御幸スポーツクラブ	〒 861-4172 熊本市南区御幸苗田 5 丁目 6-6	090-2517-3539	096-378-0625	kou51@kou.bbiq.jp
	30	NPO 法人 u&uN スポ植木	〒 861-0136 熊本市北区植木町岩野 238-1（植木文化センター内）	096-227-6139	096-227-6258	ueki.uu@beach.ocn.ne.jp
南	31	あきた総合型スポーツクラブ	〒 861-5253 熊本市南区八分字町 411	—	—	nakamura-m@kowa-kk.co.jp
	32	託麻西校区総合型スポーツクラブ	〒 861-8037 熊本市東区長嶺西 2 丁目 15-20	096-380-7792	096-380-7794	takumanishi-opssc@lion.ocn.ne.jp
	33	くまもと城南スポーツクラブ	〒 861-4106 熊本市南区南高江 6-19-26	096-357-1360	096-357-1360	kazu0513@galaxy.ocn.ne.jp
	34	田迎地域スポーツクラブ	〒 862-0963 熊本市南区出仲間 7-3-6	096-378-4994	096-378-4994	dha713775@lup.bbiq.jp
	35	火の君スポーツクラブ	〒 861-4202 熊本市南区城南町宮地 1050（熊本市城南福祉センター内）	0964-27-5666	0964-27-5666	hinokimisc@gmail.com
	36	NPO 法人うとスポーツクラブ	〒 869-0432 宇土市旭町 504（宇土市民体育館内）	0964-23-3493	0964-23-5148	info@uto-sc.jp
	37	NPO 法人上天草スポーツクラブドリームズ	〒 869-3603 上天草市大矢野町中 2289（上天草市大矢野総合スポーツ公園内）	0964-56-4701	0964-56-4702	kamiamakusa-dreams@voice.ocn.ne.jp
	38	うしぶかいキキクラブ	〒 863-1902 天草市久玉町 5716-4（牛深総合体育館内）	0969-72-6311	0969-72-6399	ushi-iki@iaa.itkeeper.ne.jp
	39	元気・夢クラブ	〒 861-4405 下益城郡美里町萱野 745（美里町総合体育館内）	0964-46-4141	0964-47-6911	mar_11912241106@yahoo.co.jp
	40	サンビレッジみなまたスポーツクラブ	〒 867-0034 水俣市袋 793	0966-63-1766	0966-62-2745	iwachan22910@yahoo.co.jp
	41	フネッピーすこやかスポーツクラブ	〒 861-3204 上益城郡御船町大字木倉 1176-1（御船町スポーツセンター内）	096-282-4111	096-282-4113	yfukunaga@town.mifune.lg.jp
	42	ふれあいスポーツクラブあさぎり	〒 868-0408 球磨郡あさぎり町免田東 1774（あさぎり町教育委員会）	0966-45-7226	0966-45-7227	s-nonowaki@asagiri.kumamoto.jp
	43	湯前さわやかクラブだんだん	〒 868-0623 球磨郡湯前町 1693-2（湯前町 B & G 海洋センター内）	0966-43-4555	0966-43-4011	sha-taiiku@yunomae.kumamoto.jp
	44	あいあいスポーツクラブたらぎ	〒 868-0501 球磨郡多良木町大字多良木 1467-3（多良木町民体育館内）	0966-42-4040	0966-42-4044	aiiai_sc_taragi@cronos.ocn.ne.jp
	45	太田郷スポーツクラブ	〒 866-0825 八代市井上町 601-1（太田郷コミュニティセンター内）	0965-34-3776	0965-34-3776	qqyg5bhd@cube.ocn.ne.jp
南	46	NPO 法人不知火クラブ	〒 869-0552 城市不知火町高良 2273-1（不知火体育館内）	0964-32-7321	0964-27-5099	npo.shiranuhi@globe.ocn.ne.jp
	47	カルヴァーリョ・ラッソ人吉	〒 868-0015 人吉市下城本町 1578 番地 1（カルチャーパレス内）	0966-22-2111	0966-22-7019	syakaikyoiuku@hitoyoshi.kumamoto.jp
	48	クラブれいほく	〒 863-2503 天草郡苓北町志岐 1230-2（苓北町総合センター内）	0969-35-2112	0969-35-2112	club.reihoku@major.ocn.ne.jp
	49	I・YOUS スポーツクラブ	〒 861-4696 上益城郡甲佐町大字豊内 719-4（甲佐町教育委員会内）	096-234-2447	096-234-2957	shakai02@kosa.kumamoto.jp
	50	山都ふれあいスポーツクラブ	〒 861-3513 上益城郡山都町下市 33-1（中央公民館内）	0967-72-0444	0967-72-2250	yamatofureaisc@kme.biglobe.ne.jp
	51	UKI おがわクラブ	〒 869-0622 宇城市小川町西北小川 367-1	0964-43-3028	0964-43-3060	ogawasp@coral.ocn.ne.jp
	52	ひかわスポーツクラブ	〒 869-4814 八代郡氷川町島地 642（文化センター内）	0965-52-5860	0965-52-7060	hikawasc0220@yahoo.co.jp
	53	アロマクラブ	〒 861-6102 上天草市松島町合津 4276 ー 44（総合センターアロマ内）	0969-56-0777	0969-56-3370	aroma@hitodukuri.com
	54	NPO 法人総合型クラブ SCC 宇城	〒 869-0524 宇城市松橋町豊福 1786 番地（サンアビリティーズ内）	0964-53-9352	0964-53-9358	club-matubase@kfa.biglobe.ne.jp
	55	さかもと未来クラブ	〒 869-6105 八代市坂本町坂本 4228-24（坂本コミュニティセンター内）	0965-45-2228	0965-45-2283	sakamoto3796@yahoo.co.jp
	56	DREAM 火流	〒 869-5145 八代市日奈久新田町 2081	0965-38-1573	0965-38-1573	dream196068@yahoo.co.jp
	57	つなぎ運動します隊	〒 869-5603 葦北郡津奈木町岩城 1588-1（教育委員会内）	0966-78-5400	0966-68-4945	takemoto@town.tsunagi.lg.jp
	58	嘉島町総合型地域クラブ	〒 861-3106 上益城郡嘉島町上島 545（教育委員会内）	096-237-0058	096-237-1299	sougougata@outlook.jp
	59	NPO 法人ヴィラノーバ水俣	〒 867-0054 水俣市汐見町 1 丁目 4 番 32 号	0966-63-3607	0966-63-3608	inoue.makoto@khaki.plala.or.jp
	60	やつしろ総合型クラブ「リ・ボンズ」	〒 866-0063 八代市豊原上町 3265-3	090-9584-6652	0965-31-8218	hisae123456789@yahoo.co.jp

熊本県内総合型地域スポーツクラブ MAP

平成 30 年 3 月現在

〈熊本市〉

日吉地域総合型SC

NPO法人桜木ふれあいSC

龍田地域なかよしSC

東部地域総合型SC

託麻西校区総合型SC

NPO法人u&uNスポ植木

NPO法人スポレク・エイト

天明総合SC

長嶺地域SC

エス・エス・月出

城北SC

ほくぶ総合SC

花園SC

帯山地域SC

御幸SC

あきた総合型SC

川尻SC

出水南どっとネット

火の君SC

くまもと城南SC

田迎地域SC

中央ふれあいSC

NPO法人長洲にここクラブ

オレンジはあとクラブ

嘉島町総合型地域クラブ

NPO法人うとSC

クラブれいほく

うしぶかいキキクラブ

ひかわSC

NPO法人上天草SCドリームスアロマクラブ

〈八代市〉

太田郷SC

さかもと未来クラブ

DREAM火流

やつしろ総合型クラブ「リ・ボンズ」

〈宇城市〉

NPO法人不知火クラブ

UKIおがわクラブ

NPO法人総合型クラブSCC宇城

〈天草市〉

うしぶかいキキクラブ

ひかわSC

NPO法人上天草SCドリームスアロマクラブ

〈八代市〉

太田郷SC

さかもと未来クラブ

DREAM火流

やつしろ総合型クラブ「リ・ボンズ」

〈宇城市〉

NPO法人不知火クラブ

UKIおがわクラブ

NPO法人総合型クラブSCC宇城

〈天草市〉

うしぶかいキキクラブ

ひかわSC

NPO法人上天草SCドリームスアロマクラブ

〈八代市〉

太田郷SC

さかもと未来クラブ

DREAM火流

やつしろ総合型クラブ「リ・ボンズ」

〈宇城市〉

NPO法人不知火クラブ

UKIおがわクラブ

NPO法人総合型クラブSCC宇城

〈天草市〉

うしぶかいキキクラブ

ひかわSC

NPO法人上天草SCドリームスアロマクラブ

※地図には協議会未加入クラブも含め全クラブを記載しています。

おわりに

平成28年4月に発生した熊本地震に係る報告書として「熊本地震発生からの歩み」を発刊いたします。

熊本県内でも被災の状況に大きく差があり、県内の方でも、被災した地域がどのような状況だったのか、また、各地でどのような取組がなされたのか知らない方が多いかもしれません。

私たち熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会といたしましては、公益財団法人熊本県体育協会と連携し、本県の復旧・復興はもとより、今後、どこで何が起こるかわからない、いつ自分たちが災害に見舞われるかわからないことを踏まえ、私たちの経験や気づきが、少しでも全国の皆さんのためになればという想いで、作成にあたらせていただきました。

原稿作成にあたり、大変御多用な中、取材に御対応いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

一人でも多くの方にご覧いただき、何か行動のきっかけになっていただければ幸いです。

今後も、熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会は、総合型地域スポーツクラブの担うべき役割を見据えながら、地域に寄り添い、歩んでいきます。

熊本地震発生からの歩み 熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会「今こそ絆！復興事業」

平成30年3月発行

〈発行〉

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（SCS 火の国クラブネット）

〒861-8012 熊本県熊本市東区平山町 2776 県民総合運動公園陸上競技場内

Tel 096-388-1581 Fax 096-388-1584 Mail main@kumamoto-sports.or.jp

facebook ページ

[https://www.facebook.com/ 熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 -1582170638694140/](https://www.facebook.com/熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会-1582170638694140/)

ホームページ <http://kumamoto-sports.or.jp/scs/>



〈編集〉会長 長田政敏
副会長 山本光夫、丸山春雄、丸目龍喜
理事長 佐藤 剛
理事 住吉勝徳、山田健次、福山光子、上田義幸、笠 和子、中村政澄、
齋藤久允、田上貴史、高野寛志、山下直之、永嶋英孝
事務局 永田好文、太田黒尚子

〈協力〉熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会加入クラブ
阿蘇の灯（あかり）





熊本地震
発生からの
歩み

熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（SCS 火の国クラブネット）